

1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月は大型クルーズ船の寄港が相次いだことで、ほぼ毎日、多くの外国人観光客でにぎわっている。4月25日時点の当施設の来客数は例年を20%上回っている。このままの勢いが続けば、4月としては過去最多の来客数となりそうである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上が好調に推移していることから、景気はやや良くなっている。4月の売上は、2024年比で131.6%、2023年比で150.3%、2022年比で327.9%、2021年比で832.5%、2020年比で2053.3%となっている。客船の寄港が5隻あったこともプラスである。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数は微減だが、販売額が増加しているため、景気はやや良くなっている。ただし、国内の団体旅行について、受入れ側の人手不足の影響で、貸切バスや宿泊施設の手配が難しくなってきていることが気掛かりである。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と同様に、観光客が順調に増加している。特に乗用車を積載するケースが増えている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションに対する客からの資料請求が増えており、モデルルーム来訪の予約件数も増えている。また、契約に至るまでの商談日数も短くなってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当区域を訪れる来街者数は少ないままである。観光客を見掛ける機会は増えているが、前年よりも増えている実感はない。ビジネス客は前月に引き続き少なく、増加するような兆候もみられない。また、歓迎会などもそれほど行われていないため、夜型飲食店の売上も伸び悩んでいる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・景気はやや回復しているものの、今一つ力強さに欠けている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・インパウンドの来客数が伸び悩んでいる。道内客の消費行動も停滞したままである。そのため、足元の消費は小康状態が続いている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合各社において、チラシなどに掲載する商品のグレードをこれまでよりも少し下げる傾向がみられる。客もそうした商品に目を向けるようになってきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品単価が上がっていることから、売上は前年を上回っているものの、来客数は前年を下回っている。支出を抑えるため、客が来店頻度を低下させる傾向が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・米の高値が家計に大きく影響している。直近の来客数は前年を下回っており、客の節約志向が続いていることがうかがえる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・円安を要因とした物価高騰により、客の節約志向が続いている。一方、企業としても、円安に伴う原価高騰により粗利益が減少しているなか、人件費負担が増加しており、景気の悪い状態が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今はあらゆる物が値上がりしており、車の価格も上がっていることから、景気は厳しいまま変わらない。また、金利が上昇傾向にあることで、今後の販売に影響が出てくることも懸念される。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算の数字は前年と変わりがなく、決算手当も前年並みの水準にとどまっている。景気が大きく変動するような状況にはなく、横ばいでの推移が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・サービス工場の売上による下支えはあるものの、新車も中古車も受注台数及び売上が前年を下回っている。
		自動車備品販売 店(店長)	単価の動き	・例年4月はタイヤ販売が集中する時期である。今年もタイヤの販売量が前年比110%、店舗全体の売上が前年比130%と好調である。ただし、販売内容をみると、単価の低い商材が多く、内容としては決して良いものではない。
		その他専門店 [造花](店 長)	お客様の様子	・計画どおりに前年並みの売上を達成することができたが、前年が1割減だったことから、景気が上向いているとはいえない状況にある。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ランチの新規客が増えたことで、売上は何とか前年並みとなりそうである。一方、身なりが小ざれいで産地や食材に興味を持つようななじみ客が少なくなっていることは気掛かりである。また、コロナ禍前は、ゴールデンウィーク期間中に、家族や親戚が集まるような昼の予約がみられたが、今はそういった団体利用はなくなっている。地元客がSNSに外食の投稿を行うことも少なくなっている。米国の関税政策の動きを受けて、国内の株価が大幅に下がった際に、株式投資を行っている客が困っていたことがあり、飲食店の客足にも影響が生じることがあるのかと怖くなった。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・3月と比べると売上は良いが、前年を下回っている。ただし、売上が伸びないのは、景気が悪いせいなのか、入居しているホテルの販売戦略の問題なのか判断が付かない。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・桜の開花とゴールデンウィークが重なったことから、来客数の増加を見込んでいたが、前年と比べて観光客の動きが鈍く、来客数に大きな変動がみられなかった。
		スナック(経営 者)	来客数の動き	・3か月前と比べて、状況が余り変わっていない。来月も同じような状況が続くとみられる。
		観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・客単価は上昇しているものの、来客数は微減していることから、全体で見ると、景気は変わらない。
		旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・インバウンド需要の増加により宿泊施設の単価が上昇しており、そのことが国内旅行の落ち込みの一因となっている。
		旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・3月までは販売量が前年を上回る状況が続いていたが、4月の販売量は前年並みにとどまっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の人出が少なく、活気のない状態が続いている。それに伴って、売上も減少している。また、乗務員不足も深刻な状態が続いている。3か月前と比べて、変化のない状況が続いている。
		美容室(経営 者)	販売量の動き	・物価高による消費の落ち込みを懸念していたが、売上が前月を下回ることはなかった。前年と比べても、ほとんど変わっていないため、景気は変わっていない。
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・賃上げに伴う人件費の増加と原材料価格の高騰で、販売単価が高止まりしている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・物価上昇の影響により、特に趣味し好の商材について客の動きが鈍化している。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・客の動きは決して良いものではない。あらゆる物が値上がりしていることで、少しでも価格の安い商品を買いたいようになっている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・物価高が続くなか、ガソリン価格が高騰し始めたことで、客の節約志向が強まっている。車を使っている来街も大幅に減っており、今年に入り、消費が急激に落ち込んでいる。人が来ないため、商店街としては厳しい状況となっており、早めの経済対策が求められる。
		一般小売店[土 産](経営者)	来客数の動き	・例年4月になると、インバウンドが激減する傾向があり、今年も同様の動きがみられている。特に今年の場合、航空便が春ダイヤに切り替わったタイミングで中国便が減ったことが大きく影響している。また、ここに来て為替が円高に振れていることも少なからず影響しているとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・主食である米の価格が高止まりしていることで、価格に対する客の意識がかなり高まっている。米以外の食材を買い控える傾向も強まっており、これらのことが来店頻度や買上点数の減少といった動きとして現れている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・インバウンド効果もあって、観光地の店舗は好調だが、仕入単価の上昇が続いていることで、販売点数が減少傾向にある。来客数は維持できているものの、客単価が低下しており、売上の伸びを見込めない状況にある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・米の値上がりが連日のように報道されていることで、客の心理面に影響が出ている。当地では米の価格は比較的安定しているにもかかわらず、客の節約志向が強まっているようにみられる。
		スーパー（従業員）	単価の動き	・物価上昇によって客の動きが鈍化している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・値上げの影響で客の購入金額が減っている。
		衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・前月と同様に、物価高騰の影響が続いている。客単価が上昇せず、販売点数や来客数も増えてこないことから、売上も厳しくなっている。
		乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・新車の受注台数が地区全体で前年比80%という厳しい状況にある。中古車販売も同様の状況であり、全体的に客の動きが悪い。サービス部門の売上も厳しい状況にある。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当業界を巡るネガティブな報道が多く、商品に何も問題がないにもかかわらず、客からの問合せが増えている。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比が減少している。特に日用品や家電、季節商材など、この時期に売れるはずの商品が低調なことから、客の節約志向が強まっていることがうかがえる。そのため、景気はやや悪化している。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・4月は天候の悪い日が多く、日中の気温が6度ほどの日もみられた。4月としてはこれまでに経験がないような寒さであり、高齢者が中心の店舗にとっては厳しい状況であった。物価が上昇していることもマイナスである。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・冬季観光のピークが過ぎ、観光の閑散期となっている。インバウンドも冬季観光と夏季観光の端境期となっている。ビジネス客の利用も人事異動の時期で少なくなっている。これらのことから、4月は年間で最も航空機利用者の少ない時期であり、景気はやや悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・例年4月になって暖かくなり、雪がなくなるとタクシーの利用が減り、売上が落ち込むことになる。今年も例年どおりの動きとなっており、冬期間と比べると売上が20%減っている。ただし、当社では乗務員の採用に注力しており、その効果で乗務員数が増えているため、タクシーの稼働台数が前年比プラス35%となっている。また、タクシー1台当たりの売上も前年比プラス10%となり、会社の売上は前年と比べると45%増と大幅な増収であった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・電話やアプリなどでのオーダーが減少傾向にある。一方、イベント関係や観光客の利用に大きな変化はみられなかった。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・大型量販店の新規オープンがあった地域において、競合他社の動きが強く、顧客の流出が生じている。また、高齢者が競合格安会社のシンプルな料金プランに流出するケースも生じている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・ここに来て灯油の価格が大幅に上がっていること、4月に食料品を始めとした多くの商品で値上げが行われたことから、前月中に客がまとめ買いする傾向がみられた。そのため、4月になり、客が出費を控える傾向が顕著にみられており、当店の来客数も減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店サイクルが明らかに長くなっている。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・米国の関税に関するニュースをきっかけに、来客数も売上も大幅に減少している。
	×	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・国内内容については、ボリューム層を中心に来店こそあるものの、買上率や買上点数の数字が悪くなっている。インバウンドについても、買上率や客単価が低下している。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・米を始めとして、物価高が収まっていないことから、販売点数が減少している。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・5%引きやポイント還元などを行う日は商品が売れるが、何も無い日の販売動向は厳しい状況となっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・前月末まで好調に推移していたことから、4月も衣替えのスーツ需要が伸びると見込んでいたが、米国の関税や株価の落ち込みなど、余り良くないニュースが出た途端、客足が大きく鈍り、回復に向けた動きが全くみられなくなった。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価高や金利上昇などにより景気が悪化しており、個人消費が低迷している。国内客を中心に集客が大きく落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・米の高騰が長引いていることに加えて、米国の関税政策や国の経済対策の動向が不透明なことから、消費者心理がポジティブになるような要因が見当たらない。そのため、景気も好転していない。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・例年であれば、春先の4月になると住宅着工数が増えてくるが、今年は4月になっても住宅着工数が全く増えてこない状況にある。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・公共土木工事の受注が前年を若干上回るペースで進むなど、順調に推移している。建築工事は、建設コストの高騰で道内デベロッパーの分譲マンション案件が停滞しているものの、それに代わって、道外事業者による開発物件や店舗、工場、物流施設などの投資案件を受注できている。技術者の現場配置もフル稼働状態となっており、好調な新年度のスタートとなっている。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先との取引状況について、大きな変化はみられないものの、引き続き好調に推移している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国内の建設総投資は堅調に推移している。ただし、今後については、民間設備投資において、米国の関税政策の影響が出てくる懸念される。
		農林水産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・景気は少しずつ回復している。ただし、食料品の価格が全体的に高騰したままであり、それに伴って青果物の価格も上昇していることが気掛かりである。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と変わっていないが、前年を下回っている。
		食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・ゴールデンウィークを控えて、観光客の動きが落ち込む時期であることから、前月と比較すると売上は減っている。ただし、季節要因を考慮すると、同水準であるとみられる。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・設計案件はあるものの、対応できる人員が不足していることで、受注できない案件が増えている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年この時期は貨物の動きが鈍くなる傾向にあるが、今年は農産品を中心に区域内輸送が好調に推移している。また、本州向けのトレーラー輸送も、紙パルプや雑貨の荷動きが見込みほど落ち込んでおらず、順調に推移している。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・依然として2024年問題を解消できていない。作業員やトラックの不足が続いており、思うように仕事をこなせない状況は変わっていない。例年であれば、雪解けに伴って、国内外の物流が動き始める時期だが、忙しい割に期待ほどの収益とはなっていない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同様に、受注量は堅調に推移している。サービスの解約も少なく、販売単価が上昇している案件も増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		司法書士	受注量や販売量の動き	・相続や売買、住宅リフォームなど、不動産登記に関する案件の販売量が引き続き好調であった。
		その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・年が明けてから、電話での問合せなどが減っている。現在もゴールデンウィークを控えて問合せの少ない状況が続いている。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比プラス26%であったが、1月の販売量は前年比プラス48%であったため、3か月前と比べると景気はやや悪くなっている。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・米国の関税の動きが不透明なことから、景気はやや悪くなっている。
		金融業(従業員)	取引先の様子	・燃料油価格激変緩和補助金が終了したことで、企業の燃料費、動力費の負担が増加し、収益を圧迫している。人手不足感も強まっており、受注抑制や生産能力の低下を危惧する声も上がっている。これらのことから、景気はやや悪くなっている。
		広告代理店(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・販売価格に原価上昇分をうまく上乗せできていない状況にある。そのため、景気はやや悪くなっている。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・不動産の購入を検討する世代の収入が増えていない一方で、物価高騰により生活するための支出が増加している。そのため、例年と比べて、取引量が減少している。
	x	-	-	-
雇用 関連 (北海道)		-	-	-
		求人情報誌製作会社(編集者)	求職者数の動き	・アルバイトやパートの求人数は減少しているものの、正社員の求人数はやや増加していることから、時給アップの動きと合わせて、正社員化が進んでいることがうかがえる。一方、スポットワークの求人は堅調に推移しているとみられる。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人数は引き続き増加傾向で推移している。IT業界では、人材需要が恒常的に高止まりしている。流通業界では、人材流出に伴う人手不足ではなく、好調な業績を背景に人材ニーズが高くなっている。建設業界では、人材確保が追い付かず、客からの依頼を断るケースが出ているとの話が聞かれる。一方、求職者については、求人を選別を厳格に行っているというよりも、自身で何をすれば良いのか判断できずに転職市場で滞留しているようにみえる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・経済が動き始めているものの、物価や原油価格、資材価格が高騰していることでプラスマイナスゼロの状態となっており、景気が良くなっているとはいえない状況にある。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・年度替わりのため、求人・求職活動が活発になっているものの、これは季節要因によるものであり、水準としては例年並みの動きにとどまっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.5%の増加と10か月ぶりに前年を上回ったものの、月間有効求人数が前年から5.4%の減少となっている。全体の求人数が増加している状況ではないため、景気は大きく変わっていない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地における3月の有効求人倍率は0.85倍であり、前年を0.04ポイント下回った。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・余り増減がみられない状況となっている。また、米国の関税政策の見通しが不透明なことから、様子見している企業が多く、特段の変化がみられない状況にある。
		学校[大学] (就職担当)	求職者数の動き	・各企業は人材確保に苦戦している。また、前年度と比べて早期選考が増えている。こうした動きを受けて、求人数が減少傾向にある。
	-	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		競艇場（職員）	単価の動き	・来客数に変化はないが、客単価が上がっている。大口の客が数名いたことが要因とみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・来客数と販売量は減少しているが、客単価は上がっているため、売上は前年比100%である。
		スーパー（商品担当）	単価の動き	・値上げにより商品単価が上がったことで、客単価が微増している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣の競合店の撤退により来客数が増加し、売上もアップしている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・本部の施策により販売量がアップしている。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・来客数に変化はなく、値上げにより客単価と売上は上がっているものの利益は少なく、経営の厳しさは変わらない。業務が増え過ぎて働き手も更に減少している。ただし、除雪代の支払が終わり多少楽になっている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・来客数は増えていないものの、世の中の人の動きは良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年よりも増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今年は桜の開花期間が長く、花見の効果で来客数が例年よりも多くなっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・イベントや転勤などが活発になっており、例年と比べて礼服やスーツを購入する客が多い。景気は少し上向いている。
		家電量販店（従業員）	単価の動き	・前年低迷したエアコンやパソコン等の買換え需要が戻っている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年、4月は落ち着いているが今年は珍しく忙しい。予約状況をみても景気はやや上向いているといえる。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・桜のシーズンに合わせて、インバウンドが大きく増加している。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・桜のシーズンが到来し、アジアのみならず欧米からの客の動きが良くなっている。
		美容室（経営者）	単価の動き	・入学式や新年度の準備に加え、ゴールデンウィーク前であることから、カラーやパーマをする客が多く、客単価が4500円から500円ほど上がっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・春の訪れとともに来街者数は増加している。しかし、米国の関税政策や物価高騰は続いており、景気は横ばいとなっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・米や野菜、ガソリンなど生活に直結する物の価格がかつてないほど高騰しており、消費者の生活を圧迫している。その影響でレジャー費、外食費は節約傾向にあり、飲食店への販売量が伸び悩んでいる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・売上は低水準で横ばいとなっている。購入額の大きい一部の客に偏った売上構造がますます顕著になっている。
	百貨店（催事担当）	お客様の様子	・物産展やイベント等、期間限定の提供商品は反応が良い。しかし、食料品や日常使いの商品の販売量は、生活防衛意識の高まりにより減少している。また、今月前半の低温により、ファッション関連商品の動きも鈍くなっている。	
	スーパー（経営者）	単価の動き	・原価やコストが広範囲にわたり上昇しているにもかかわらず、1品単価はほぼ横ばいで前年並みの推移である。売上、買上点数は前年を超えているが、経費の増加分を補えるほどではなく、価格転嫁をする品目を増やさないと収益は良くならない。客の低価格志向は変わらず、期待したほどの消費はない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・米の販売が好調で売上を大きくけん引している。酒類値上げ後のマイナス分を補って余りある状態になっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	それ以外	・物価高が続いており、節約志向は変わらない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・値上げにより客単価は上がっているが、買上点数は減少している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・節約志向が続いている。
		スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・客はより安い商品や店を求めて、近隣の店を買い回る傾向がみられる。チラシの内容によっても来客数は大きく変化する。
		スーパー（業務担当）	お客様の様子	・競合他社の新店舗に想定以上の客が殺到している。客はチラシにかなり敏感になっている。
		スーパー（店舗運営）	単価の動き	・食品の相次ぐ値上げによる買い控えは依然続いているものの、一時期より落ち着いている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は減っているが、商品価格が上がっている分、売上は少し増えている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数、販売量の微減が続いており、10か月連続で前年を割っている。商品の値上げにより、買上点数は横ばいである。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・物価高騰が続き、客の財布のひもは固くなっている。年金受給日以降は多少動きがあるものの税金等の支払も多く、失速するのは時間の問題である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・決算後の月のため法人関係の動きは鈍い。一方、花見の時期で人出が多くなっており、土産品を中心に動きが活発になっている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・ビジネス、不祝儀、旅行用途などモチベーションと連動したニーズは安定しているが、ふだん着需要が天候や気温に振り回されていて不安定である。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数は前年比90%の状況が数か月続いている。
		家電量販店（従業員）	単価の動き	・家電製品には、指定価格商品という一切の値引きができない商品がある。テレビや冷蔵庫、洗濯機、エアコン等の大型家電商品に多い。省エネ性能や機能が充実したメーカーのフラッグシップモデルであることも多く、良い物に買換えようとしている客に受けが良い。物価高騰の影響で全体的に単価が引き上げられており、単価の動きが良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年と比べタイヤの交換時期がずれているため来客数は多いが、販売にはつながっていない。年度が替わりモデルも新しくなり、現行車種の生産がストップしているため、受注はあっても売上にならない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・一定の受注はあるものの配車量が変わらないため、売上に繋がらない。
		その他専門店【靴】（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの旅行用に購入するウォーキングシューズやハズフリーシューズの動きが良い。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	来客数の動き	・レジ通過客数は前年比103%である。4月は館内の大規模改装による集客・販売促進策を打っており、地元客を中心に反応がみられる。しかし、衣料品部門は前年を割っており期待値に届いていない。食料品部門は同104%であることから、生活していくためやむなくそちらを優先させているようにみえる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・物価高が解消されず、来客数は増えていない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・1～3月の個人旅行の動きが悪く、今月も改善がみられない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当社契約宿泊施設の先行販売額は、3か月前と比較してほぼ横ばいである。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・依然、社会環境は厳しい。ゴールデンウィークは自宅で過ごす人々が多く、旅行販売も客単価が上がらない。先行予約の状況は3か月前と変わっていない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量は3か月前と変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は通勤や通院、学校の入学式、社会人の歓迎会での利用のほか、クルーズ船の乗客による観光利用が多くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・放送サービスは若者を中心にテレビの必要性が低下しているため、引っ越しに伴う新規加入者数が伸び悩んでいる。インターネットサービスも競合他社との価格競争が激しくなっており、新規加入者数が伸び悩んでいる。また、携帯端末のみでの利用者が増えており、固定回線の需要も停滞している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化がみられない。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・物価が上がっており厳しい。
		観光名所（職員）	単価の動き	・年明けからの3か月間は客単価も良く、景気は良い方向に向かっていたが、ここに来てやや落ち着いている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・美容関連商品は単価が上がっているものの、販売量は鈍化している。先行きへの警戒感から購入する商品が限定されている。
		その他サービス【寮管理】（管理人）	お客様の様子	・米を始めとした食品の値上がりが続いており、当施設でも米に麦をブレンドして入居者に提供しているが、特段不満の声は出ていない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・官公庁案件は建設費の高騰で予算取りが厳しく、発注件数は少ない。民間案件は事業規模の拡大や変更に伴い新設や改修などを検討する問合せもあり、例年と変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・新築注文住宅の受注は価格高騰で低迷している。若年層の顧客は安価な建売住宅に動いている。
		その他住宅【リフォーム】（従業員）	販売量の動き	・住宅設備機器は3か月前と比べてコンロ、給湯器、エアコンの交換が増えていない。リフォームは大型の増改築や設備修繕工事が増えている。害虫駆除や屋外の塗装工事も増えている。
		その他住宅【住宅展示場運営会社】（従業員）	来客数の動き	・来場者数に変化はない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新年度になっても活気がない。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・入店客数は前年を超えるものの、買上客数が前年を割っている。特に、客が多い食品、化粧品のマイナスが大きく、識別顧客離れが目立つ。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・来客数の減少に比例して食料品が苦戦している。また、インバウンド需要で好調だった高額ブランド商品の売上がここに来て減少しており、他領域の減少分をカバーできていない。
		百貨店（従業員）	販売量の動き	・来客数は前年よりも伸びているが、販売点数は減少している。更なる物価上昇の影響もあり、消費者の生活防衛意識がますます高まっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・東北地方の店舗では来客数の伸びが小さい。売上は伸びているが、値上げ分が増加しただけである。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・物価高が続いており、客の購買意欲が低下している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月に入り来客数が更に減少している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・購入に慎重な客が目立つ。下見、買い回りが多く、再来店しても、目的の商品のみ購入し、無駄な買物は非常に少ない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・オーダーストップになっている車種が増えているため、受注が伸びない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新年度を迎え、例年であれば販売数が伸びる時期だが、むしろ低迷している。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・売行きが良い低価格帯の車種の生産台数が少なく、成約に結び付かないケースが多い。高価格帯の車種の動きも依然として悪く、新車全般に良いニュースがない。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・受注生産をしているが、販売量はやや悪くなっている。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	お客様の様子	・部材などの価格高騰により建物も値上がりが続いている。また、家具や家電なども同様である。よって、客は住宅を購入しても室内インテリアの買換えでは予算を大分落としている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔白衣・ユニ フォーム〕(経 営者)	販売量の動き	・3～4月は業界的に繁忙期だが、例年になく売上が 上がらず苦戦している。原因としては、廃業や倒産等 による顧客の減少、労働力人口の減少による受注数の 減少、競合他社との価格競争などが考えられる。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕(営業担 当)	単価の動き	・燃料油の販売単価が上旬に最高値をつけた。その後 は下落しているものの、高値が続いているため買い控 えが起こっている。
		高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・予約数が落ち込んでいる。特にディナータイムが芳 しくない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・例年なら歓迎会などが開かれる時期だが、今年は少 ない。平日の来客数の減少も著しい。外食を控えてい る人が多いことを実感している。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・来客数は比較的良かった前月までと比べるとやや落 ち込んでいる。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・今月の来客数は前年比90%で推移している。
		観光型ホテル (スタッフ)	それ以外	・物価高騰の影響が出ている。
		観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・物価高の影響か、来客数の動きが多少鈍くなってい る。
		通信会社(営業 担当)	単価の動き	・安い物を求める客が増えている。
		その他サービス 〔自動車整備 業〕(経営者)	お客様の様子	・物価の上昇に賃上げが追い付かず、商品の売行きが 急速に鈍っている。金利負担もかなり増え、仕入価格 も上昇しているが、これ以上商品価格を上げることは できない。
	×	一般小売店〔医 薬品〕(経営 者)	単価の動き	・4月に入っても値上げは止まらず、中には15%値上 げた商品もある。それにより前年と同じか上がると 考えていた客単価は、10%も下がっている。
	×	スーパー(経営 者)	お客様の様子	・ガソリンや灯油の価格が高止まりしており、実質賃 金が伸びないなか、客の財布のひもは固くなってい る。
	×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・夏物も入荷しているが、まだ寒いこともあり来客数 は少ない。
	×	その他専門店 〔酒〕(経営 者)	来客数の動き	・店頭販売では厳しいながらも動きはあるが、飲食店 の動きが悪い。繁盛店とそうでない店とがはっきりと 分かれている。全体的にみると悪化している。
	×	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・法人や組合団体の歓送迎会等の動きは例年と変わら ないが、振り客や個人客の予約数は減少が続いてい る。値上げの影響も大きく、当社の居酒屋部門は売上 が伸びているが、価格帯の高い和食部門では減少が続 いている。全体的にみると売上は前年と変わらない が、生活に必要な物以外には金を回す余裕がなくな っている人が多く、景気は悪くなっているとみている。
	×	遊園地(経営 者)	来客数の動き	・春休みは天候に恵まれず、来客数は低調に推移して いる。ゴールデンウィークは前半が飛び石なこともあ り、前年を大きく下回っている。物価上昇や先行きの 不透明感により動きが鈍くなっているとみている。
	×	美容室(経営 者)	来客数の動き	・来店サイクルがあるため、前月来た客は今は来て いない。
企業 動向 関連 (東北)		*	*	*
		農林水産業(従 業者)	受注価格や販売 価格の動き	・前年産の出荷米について農業団体からの追加払いが あったが、これまでにないくらい金額が高い。
		農林水産業(従 業者)	受注価格や販売 価格の動き	・米の販売価格は依然高値で推移している。また、ガ ソリン価格の引下げなど経費削減につながる話も出て いる。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・年度末の在庫調整が平年より強めだったため、その 反動で受注が増えている。
		食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・商品の動きが悪く、販売量の前年割れが続いてい る。
		電気機械器具製 造業(企画担 当)	取引先の様子	・半導体関連の顧客においては、設備投資に関する話 はなく、3か月前と変わらない状況である。
		建設業(従業 員)	取引先の様子	・資材価格の高騰から、契約が取りづらい状況が続い ている。
		建設業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・大口の受注契約がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・問合せはあるが受注に結び付かない。3か月前と比べても受注量に変化はない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・運賃、作業料金の値上げや一部スポットでの荷動きの回復が業績に寄与し、前年度は増収増益を確保できた。しかし、全体的に荷動きが良いといえる状況ではない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・同業他社に乗り換える動きが顕著である。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・春祭りのシーズンを迎え消費者の購買意欲は上昇するタイミングである。しかし、物価高や米国の関税政策等の経済環境の不安定さを要因に、購買気運は盛り上がり欠け、企業の設備投資意欲も抑制気味である。
		広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・年度初めの広告市場は控えめでスタートするのが通例だが、今年は物価上昇や米国の関税政策の影響もあり、前年より更に控え気味で状況は厳しい。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・広告予算が大幅に変動したという話はない。米国の関税政策の影響も不透明な状況である。
		経営コンサルタント	それ以外	・物価の上昇、人手不足、米国・中国を始めとした外交関係の変化等、中小企業を取り巻く環境条件の振れ幅が大きくなっている。そして、それらのほとんどは自力で対応できる範囲を超えている。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経理担当）	受注量や販売量の動き	・食品の値上げが続いており、受注量、販売量共に前年とほぼ変わらない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・土産品の単価が下がっている。物価高の影響とみている。
		食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・店舗の立地条件により集客の差が大きくなっている。駅周辺店舗はにぎわいをみせているが、郊外店舗は平日の集客が落ちている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・デジタル化や物価高騰による節約の影響で、主力事業である印刷の受注が減っている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・米国の関税政策の影響を受け、案件の後倒しや計画中止が出てきている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べ、新規案件の依頼件数が減少している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体事業の受注減少が続き、全体の売上が計画値まで届いていない。一部電子デバイス事業で動きが良い企業はあるものの、先が読めない。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・発注者側の資金融資が認められない案件が、特に病院関係で増えている。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格を上げたことにより販売量が減少している。
		公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、サービス業は好調に推移しているが、製造業は相変わらず売上が伸びない。また、ここに来て建設業でも業績が悪化している顧客が出ている。全体としてはまだ景気は良いものの、少しずつ悪い部分が出てきている。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大口の商談が減っているため、売上が伸びない。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月からの物価上昇の影響がみられる。また、3月の値上げ前の駆け込み需要による反動が出ている。
		その他企業 [企画業]（経営者）	それ以外	・米を始めとした食料品の値上がりやガソリン価格の高騰など家計を圧迫する材料が多くなっている。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	受注量や販売量の動き	・前年度の販売量は11年連続で前年比減少となり、過去最低を更新している。非常に厳しい状況である。
雇用 関連 (東北)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・来期採用と昨期採用のタイミングが重なったため求人数は増えたが、年度初めで採用に掛かる時間が長くなったため、採用決定数はそれほど変わらなかった。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・大型商業施設の開業やリニューアルでにぎわいがみられる。広告も堅調に動いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・米国の関税政策や米の高騰により原材料価格が上がり、利益がひっ迫している企業は多いが、求人数はそれほど変わらない。企業の経営活動は順調に推移していると考ええる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの求人依頼数に変化はない。
		アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・賃上げのため販売価格を上げているが、仕入価格も上がっており、きりが無い。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	それ以外	・観光需要が予想よりも伸びていない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・年度末の退職者の求職申込等により、新規求職者数が前年同月比で増加に転じたため、新規求人倍率が低下している。有効求人倍率は横ばいで推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は引き続きほぼ横ばいである。
		その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・労働力人口の減少により若年層の募集は活発だが、原材料価格の高騰により利益が減少している企業が多くなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数、求職者数共に前年比約80%で推移している。4月の就業決定数は過去10年間で最低値となる見込みである。市場に停滞感が出ている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・管内企業においても、米国の関税政策の影響が出てくることが想定される。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は4か月連続で前年同月を下回っている。
		学校〔専門学校〕	採用者数の動き	・専門学校生の内定時期が早まっている。人材確保が難しいのか、これまで採用がなかった企業からも複数の内定者が出ている。人材不足が企業経営に影響しているためとみている。
	x	*	*	*

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・春の繁忙期を迎える。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今後2～3か月は好調が維持されるとみている。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・団体宴会に加え、フリーの少人数客の動きが好調である。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・前年比では宿泊部門は15%前後、料飲部門で10%前後とどちらも単価を上げられたため、やや良くなっている。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・今月に入り、観光シーズンが到来し、ゴールデンウィークに向けて日本人の来店客も徐々に増えている。また、インバウンドはアジアから欧米にシフトしており、堅調に伸びている。
		旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・旅行業界全体をみると増加傾向にある。単価も上がってきている。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・月の初めは動きが良かったものの、中旬頃から少し悪くなり、前年同月と比べて5%の増収となっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・物価高騰の影響を大きく受けて、販売は非常に悪いままである。消費税減税に関心のある客が、このところ増えてきている。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・桜が咲いて、各地のイベントは盛況で少しにぎわいがみられるようだが、一般的には静かである。米価が上がればなしで全く下がらないことが話題で、客も皆悩んでいる。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度を3か月前と比較すると、若干良くなっている。新型コロナウイルス感染症発生前の売上状況に似てきているが、国内旅行客の消費額は下がっている。インバウンドの購買力が上がったことに支えられている状況である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（店長）	販売量の動き	・全体の売上は前年比マイナスを継続するものの、比較的堅調である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月後半はゴールデンウィークもあるため、受注がやや減少傾向になっている。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・低価格品を扱う食品事業だけは堅調に推移している。物価高で生活必需品以外の購買が弱い。
		その他専門店（総務担当）	お客様の様子	・顧客からの問合せが少ない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・値上げ続きで、皆が値上げに慣れてきたのではないかとみている。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・新年度からの給食事業の新規受託先数は、例年どおりの獲得はできている。ただし、新規受託先でも人材確保が厳しい状況で、既存の受託先担当スタッフの中で応援態勢を組んで対処している。結果として、交通費、宿泊代等の応援費用がかさむこととなり、収益面を更に圧迫している。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月は、グループや団体の来客数は若干増えたものの、宴会客や個人客が少し落ち着いてしまっている。前年からの伸びはない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月は歓送迎会で忘年会時期と同じくらいの動きがあるはずだが、今年は少なく、閑散としている。帰宅時間も早く、深夜の利用客がいない。
		通信会社（社員）	単価の動き	・物価高に伴い、当社サービスへの値下げ要望が増える一方で、サービスに満足して、加入者数は増えている。今後も変わらぬ顧客対応を続ける予定である。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・スーパー等の来客数は多いように見受けられるが、物価高騰が続き、低価格志向が強まった結果、店の売上増加には寄与していない。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・問合せはきているものの、価格高騰で予算が厳しく、計画が進められない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近、事務所関係の問合せは少なく、なかなか成約には至らないが、飲食店関係の店舗への問合せが少し増えてきている。ただし、撤収する店も依然として多い。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	お客様の様子	・緊急性の高い修繕やリフォームは別として、内容や金額的にも小さなリフォーム案件の受注が継続している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・諸物価高騰に振り回されている。
		百貨店（店長）	単価の動き	・元々の物価高の傾向に加え、株価の乱高下、先行きの不透明感もあいまって、急速に景況感が悪化している。これまでは来客数減少でも客単価が上昇していたが、ここに来て、単価も下がり始め、売上が厳しくなってきた。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前月に引き続き、食料品の不振が目立っている。特に、デイリー商材は、客単価と商材単価は上昇しているものの、買上点数が減少しており、物価高に伴う生活防衛意識の高まりを実感している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・4月中旬になり、新生活や卒業、入学関連の返礼等の需要が落ち着いてからは、来客数が前年比マイナス5%の状況が続いている。目的買いの来店動機で、何か目新しい物を探すといった買物を楽しむ様子は以前ほどみられない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・米価の高騰や各種の値上げにより、購入単価が低下傾向である。
		スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・物価上昇による節約志向や買い控えなどの影響か、買上点数は前年割れが続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・商材の値上げに伴い、販売点数が減少傾向にある。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・4月は暖かくなったこともあるが、桜の開花が精神的に重い心を軽くしてくれたのか、入出は若干良かった。ただし、残念ながら、その後の入出は極端に悪くなっている。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・米国政権による海外取引の不透明な状況が続き、多数の企業が不安を抱えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・当店は努力を重ねて売上を維持しているが、周囲の同業者や商店等は物価高騰により、客の購買意欲が減少傾向である。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・道路を通行する車の数が少ない。また、客が動いている様子も少ない。そのため、車の点検、修理等の頻度も落ちている。自動車購入は更に抑制傾向で、全体的にも縮小傾向である。ガソリン等の料金が下がると活性化するとみている。
		住関連専門店（店長）	お客様の様子	・買い控えの状態、特価品しか売れない。
		一般レストラン [居酒屋]（経営者）	販売量の動き	・仕入価格の高騰が続き、結果的に利益が圧迫されている。人材確保の時期で、人件費削減は難しい。販売量が例年並みだとしても好景気といえるような材料はない。
		旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・前年より来客数は減っている。季節変動はあるとみているが、物価高の影響がないともいえない。
		通信会社（局長）	単価の動き	・4月の値上げ、今後の国内政治や米国の関税対策に伴う各国の対応、米国の取組等、全てが不透明なため、やや悪くなっている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・当店の客層は高齢者が多く、生活必需品の値上がりで余裕がなくなっている影響が大きい。一方、比率は少ないものの、30代から50代の客はちゅうちょせずに高価格帯の商材を選んでいる。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・物価やガソリン価格の高騰のため、レジャー費の抑制につながっている。
		ゴルフ場（従業員）	販売量の動き	・オンシーズンに入ったが、予約が最後まで伸び切らず、来場者数、売上ともに、前年を下回ってしまいそうである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・米国の関税政策に端を発する世界経済の景気後退をおそれ、儉約ムードが広がっている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・全体的に売買案件が減少している。購入に関しては、住宅ローン金利上昇で買い控えがやや増えている印象がある。売却については5月以降に固定資産税の納付が始まるため、増加が予想されるものの、不確定である。
	×	一般小売店 [家電]（経営者）	来客数の動き	・物価高で、回せるお金が限られている客がかなり多い。電化製品は後回しというのが、現状ではないか。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は前年比98%だったが、今月は91%と悪くなっている。不調の商材はエアコン86%、冷蔵庫68%、洗濯機60%、テレビ75%と売上構成比の大きな商材群が全減である。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・米国政権の不安定さから悪くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・同業者の集まりで話を聞いてみると、どこも苦労している。特に、夜の客引けが早く、2回転せず、夜8時以降は閑古鳥という店が多い。個人経営の居酒屋は苦労している。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・物価上昇の影響で、街に客がいない。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格の割に商材は動いている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引額、単価、取引先の様子のいずれも、今のところはかなり良い。
		食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の多くは原価高騰に非常に苦慮しているが、インバウンドによる人流の活発化で一服している。ただし、基本的な厳しさは相変わらずである。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大きな変動もなく、稼働している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の受注量が変わらずに推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・夏物家電、エアコン、扇風機、レジャー、ハーベキュー用品等の物量は前年並みを確保している。このところ地震等も続いており、自治体や個人向けの防災バッグ等の物量が増えているが、全体的には前年並みの輸送量となっている。ドライバー不足と2024年の労働時間制限問題もあって、協力会社の輸送運賃も高く、利益は薄くなっている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・関税関係や経営方針の変更に対応するため、各種協議等の場面が多くなっている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・組合がない規模の中小企業の賃上げは2%上がれば良い方なので、地方の個人消費は厳しい。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年実績をクリアできない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・先行きの不透明感が強まり、多くの取引先から明確な計画が出てこない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は輸出はしていないが、米国の関税政策で景気が悪くなったら、売上が少なくなるのではないかと警戒して、多少、発注を加減している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国向けの製品受注が減少している。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店、特に、居酒屋やラーメン店等の閉店が目立っている。
		経営コンサルタント	それ以外	・米国の関税政策の行方が不透明であるため、中小、下請企業の見通しが立たない。新規顧客の開拓やOB顧客への再営業に注力し始めているが、十分な結果を出すまでには至らない。花見シーズンで人出はそこそこあり、多少個人消費があったので、中小商店等に、僅かながら好影響があったとみられる。
	×	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は4月決算だが、単月の売上が今期最低となり、過去10年の4月売上と比較しても、最低金額となっている。景気は悪くなっているとしか言いようがない。
	×	不動産業（管理担当）	それ以外	・年度末決算の速報では、売上は横ばいで営業利益が半減している。各種資材の値上げによる利益の圧迫と人件費増加で価格転嫁が依然として進まない状況である。
雇用関連	-	-	-	-
(北関東)	-	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・シニア層の求職者数は増加傾向だが、企業側の求める人材とのギャップは解消されていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増減を繰り返している。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・新年度を迎えて、新旧交代もあり、かなりの採用があった。ただし、賃金格差はあり、景気が厳しいのかと思わせる採用内容もみられ、働き方も変わってきている。物価高が1番影響はあるが、米不足でもあり生活に苦しさがかがえる。ファーストフード等の購買力も、良いところとやや悪いところが見受けられる。外国人に期待している。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・安定した正社員への応募希望が多く、派遣求人数が減少したため、やや悪くなっている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	それ以外	・物価上昇と外的要因により、景気は減退している。
	×	*	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・インバウンド向け商材及び学童用品を中心に、販売数量、販売額が増加している（東京都）。
(南関東)		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	単価の動き	・前々年度の価格転嫁交渉により、前年度は原材料、人件費の上昇分を消化して増益となっている（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・年始と比べれば、稼働、単価共に上がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・客の入金頻度が上がっている。
		一般小売店〔傘〕（店長）	販売量の動き	・数か月前と比べると、来客数、販売量共に増加している。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・今月は天候のプラス要因もあって来客数が伸びている。カテゴリー別では食料品や飲食店が売上を伸ばしている。インバウンドによる宝飾品や化粧品も伸ばしている（東京都）。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が回復している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は横ばいだが、売上は104%と好調である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月は前年と比較して降雨日が多かったため、傘及び食料品が伸びている。その影響も含めて来客数が前年を超えている（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きは101.2%と、前年と比較しても好調に推移しているが、実態として良くなったという印象はない。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・天候が安定し気温も上昇してきて、買上点数、来店頻度共に増えている（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・天候も暖かくなり、空調服の問合せが増えてきている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・現状、主力事業のドレスの売上については、前年比プラス6%で推移しており、来客数もプラス5%である。特に、ECサイトからの売上はいずれも3割増加している。一方、着物については、催事が好調に推移し、計画を上回っている。いずれも商材や催事の情報をホームページ、SNS等で発信し、集客につながっている（東京都）。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・訪日外国人の来客数は前年同月よりも伸びている（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数が前年比で増加しており、新車の販売量も増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月は人の動きが激しいために良いが、4月はある程度落ち着いているためそれほど良くはない。最も売上が悪い2月頃と比べれば良くなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は歓送迎会の予約がかなり入っており、前年度よりも団体客数が多かったため、3か月前よりも良くなっている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・都内への国内観光客、インバウンドもあり、来客数が増えている（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今月は近隣コンベンション施設で非常に大きな催事、ライブ等が入っており、その影響で宿泊が非常に良い。宴会関係も歓送迎会を中心としてにぎわっている。3か月前と比べても状況はやや良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・インバウンドが引き続き好調で、販売量が前年同期比120%で推移している（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・病院、会社と送迎は多くあり、駅の利用も増えている。終電後はロングの客がいて良いが、飲み屋からのオーダーが減っていることが気になっている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響がなくなり、外出機会も増えてきている。財布のひもも必然的に緩んできて（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・大手企業の広告に関連した引き合いが出てきており、大口注文が期待できる（東京都）。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・BtoC事業に関して注力配分を変更し、改善傾向にある。市況は値上がり等で購買意欲を減退させる状況はあるものの、緩やかに伸びている（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・来場者数は3～4%減少しているが、単価の上昇により売上は前年同期を上回っている。ただし、販売促進のための施策も打っているため、利益は前年並みである。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・今月は天候も良く、来場者数は101%と微増傾向にある。ただし、想定ほどの増加ではなく、例年より増加率は控えめである。株価が下がった影響が、消費行動が控えられている印象を受ける。
		ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・暖かくなり、客が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他レジャー施設 [ボウリング場] (支配人)	来客数の動き	・学生、企業の予約、来場がここ数年で最も良い(東京都)。
		設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・具体的な内容に関する打合せが行われている。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業である。インバウンドを含めた観光用ホテルを扱っているが、インバウンドがかなり増えてきたため、これからホテルの稼働率も上がり良くなっていく。一方建設業では、資材価格の高騰により、公共工事を含めスムーズな受注ができなくなっている。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・来客数はある程度あるものの、契約にこぎ着けるまでが大変難しくなっている。契約をしたとしても、やはり以前と違って単価が低くなっている。
		商店街 (代表者)	それ以外	・クレジットカードの取扱高は堅調で、前年比でもプラスになっているが、もっと良くなってよさそうな来街者数である。米国の関税政策などによる世界的な景気動向の影響が当地域にも少し出ているのかもしれない(東京都)。
		一般小売店 [家電] (経理担当)	販売量の動き	・今月は来客数が想定以上に多かったが、後半は売上が落ちている。
		一般小売店 [家電] (経理担当)	販売量の動き	・今月に入って家電製品に動きが出てきており、4Kテレビも動いている。今夏も暑くなるとの予報が出ているため、エアコンも売れてきている。工事の方は大手企業が訪問しているためか、分電盤交換の話が多い。
		一般小売店 [家具] (経営者)	販売量の動き	・一時期よりは客が多少増えてきて、催事などでの販売成約も出ているが、景気は良くない(東京都)。
		一般小売店 [印章] (経営者)	販売量の動き	・年度替わりで、取引先社員が新部署に異動したことなどによる商材の動きが多少みられる。ただし、これは一過性のものであり、長期的なものではないため、残念ながら余り大きなプラスにはならない。
		一般小売店 [眼鏡] (経営者)	来客数の動き	・円高になってきているが、仕入価格は円安当時のままである。来客数は前年比ではやや伸びているものの、売上は減少している。仕入コスト、人件費が高騰しており、なかなか厳しい状況にある。
		一般小売店 [生花] (店員)	販売量の動き	・客の財布のひもがとても固い。以前は3000円や5000円の花束がよく売れたが、それさえも余りない。仏花は売れるものの、仏花の単位も少なくなっている。例えば、4束必要なところを2束にしている。生活の厳しさがよく分かる(東京都)。
		一般小売店 [茶] (営業担当)	販売量の動き	・来客数は前年並みだが、単価が上がった分、売上は増えている。
		一般小売店 [茶] (営業担当)	販売量の動き	・販売数は外部の販売でも今までのようには売れず、通常の売上も変わらない。特に売れる時期にもかかわらずそれほど注文も入っていない。客の財布のひもが固いのか、し好が少し変わったのか、分からない。そのような状態なので、当社の景気は良くない。とにかく新規受注を取るべく社員一同頑張っている(東京都)。
		百貨店 (売場主任)	来客数の動き	・天候不順の影響もあり来客数が3か月連続で前年比マイナスとなり、今月は0.9%減少している。食品は、原材料価格の高騰により客単価が上がっているものの、来客数減少の影響もある。円高や米国の関税政策による景気後退懸念も買い控えに影響している(東京都)。
		百貨店 (総務担当)	お客様の様子	・円高傾向の影響が、訪日外国人による消費行動が落ち着いてきている。食料品等の日用品の動きは悪くないものの、紳士、婦人共に衣料品関連がやや鈍い。客の買物が必需品中心となると、景気が良い方向に向かっているとはいえない(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・高付加価値消費への支持は底堅く、大きく変化はしていない。一方で、株価の下落による資産効果の目減りや価格高騰など様々な要因を背景に、一部の客層の消費に息切れ感もみられる。また、インバウンド消費も高額品の一極集中から化粧品など一部消耗品に需要が流れている印象を受けている。全体的に悪化したとは言い切れないが、上向きでもない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数の伸長率に対し、売上の伸長率が低い。特に、食品は物価高を原因とする買い控え傾向が続いている。生活必需品以外の買物に関して、客は慎重になっている。
		百貨店（企画宣伝担当）	単価の動き	・これまで堅調だった上位客層も、より限られた客に絞られてきている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・1品単価が上がっていることは良いが、来客数が落ち込んでいるため、結果的に余り良くない。2月、3月と比べて少し悪い状況が続いている。4月は降雨日がやや多かったことも影響している。
		スーパー（店長）	それ以外	・米を始めとした食料品全般の価格上昇傾向が続いているため、客の購買行動に変化が出てきている様子が販売実績からうかがえる。米価が高いために一部パンへの代替が進んでいたり、主食の量を減らす代わりに中間食として菓子等の嗜好品類の購入数が増えるなど、数字に変化が出てきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、単価は前年並みを維持しているものの、買上点数の前年割れが依然として続いている（東京都）。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・食品の値上げが止まらない。米価が高く、入荷自体も安定していないため、客に不安が広がっている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・米価が依然として高く、ビール、調味料等の値上げも続いており、単価の上昇傾向が継続している。そのため、生活防衛意識がまだ強く、販売量、来客数は低調である。単価の上昇分が販売量、来客数の減少分を若干上回っているため売上は伸びているものの、特売構成割合が増加しているため、利益率は減少している（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・今月は備蓄米の販売も実施されたが、米の売上は前年比300%、販売数量も170%、1品単価は185%と集客の要となっている。全体の売上も前年比108%、来客数103%と好調である。
		スーパー（食品担当）	お客様の様子	・3月末の競合他社出店の影響で、前年と比べて伸び率が鈍化している。客はより安価な商材を求めているようなスーパーを買い回っている（東京都）。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークを控えて財布のひもが固まっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上は前年並み若しくは3%程度上がっているが、来客数は5%程度落ちている。やはり物価上昇により単価が上がった分の売上の伸びだけなのかと、今後を心配している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・4月は中旬以降にたばこ配送のトラブルがあり、売上が前年比で2%減少する見込みである。今年になってからは前年をクリアしていたので残念である。商材値上げの恩恵か分からないが、たばこ以外の売上は多少伸びている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・4月の商材値上げの影響もあり、慎重な消費行動が続いているが、毎日の必要な物を売る商売なので、それほど落ち込むことはなく横ばいである（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・価格志向の高まりを意識した商材や販売促進が功を奏し、販売額は好調を維持している（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年比100%前後で余り変化がない。賃上げ幅ほどの伸びを感じない。
		コンビニ（従業員）	販売量の動き	・4月は特に変わった様子はなく、良くも悪くもない。キャンペーン内容などにより販売量も変わってくるため、いつキャンペーンを打つかが大きい。3か月前と比較すると落ち着いている。
		衣料品専門店（役員）	販売量の動き	・相変わらず販売量、単価共に上がっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価高のなか、新生活需要では複数店舗を比較する客が増えている。引っ越しが集中する期間で料金が高騰しているため、レンタカーなどを用意して自分で引っ越しする客も散見される。家電製品の買換えサイクルも伸び、壊れるまで使う人が増えているのか、壊れたために急いで買いに来たというケースが多くみられる。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・前月同様、物価上昇が収まらない。土日の来客数も変動はなく、厳しい状況が続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算月を終えて、来場者数が減ってきている（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・決算が終わり、反動減があるかと考えていたが、前年とほぼ変わらずに推移している。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	単価の動き	・4月にかなり大きな販売促進を行ったが、例年と比べると客単価が全く上がらない。
		その他専門店 [貴金属]（統括）	単価の動き	・高単価商材が売れる傾向にあるため、売上は僅かながら良い状態が続いている（東京都）。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・物価高の影響で、節約、貯金の目減りといった単語を聞くことがある。可処分所得の減少がうかがえる（東京都）。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	販売量の動き	・全体の流れは大きくは変わらないが、恒例となっている人気映画の公開日が前年と比べて1週間ずれ込み、この期間の売上が減少している。
		その他小売 [生鮮魚介卸売]（営業）	お客様の様子	・朝令暮改なニュースに踊らされて景気が翻弄されているなかで、日々淡々と商売をしていくしかないという雰囲気漂っている（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・4月実績は、前年比で売上が112.0%、来客数が98.2%、客単価が114.0%である（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・新年度ということもあり利用需要は堅調だが、世の中の経済活性化によるものではない（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	単価の動き	・食料品やエネルギーコストの上昇を適時に価格に反映できない業種であるため、将来を見越して足元のコスト上昇プラスアルファの価格改定を行っている。価格改定後においても客単価は大きな変動なく推移している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べると食材が値上がりしており、物価上昇により店舗の経営も厳しいが客の懐事情も厳しく、外食機会が減っているようである。やはり景気の悪化が何となく伝わってくる。
		その他飲食 [カフェ]（経営者）	来客数の動き	・インパウンドの流れが更に加速して、宿泊施設の客は増加しているが、大半はコンビニ利用のため、飲食店への流れは増えていない（東京都）。
		その他飲食 [居酒屋]（経営者）	お客様の様子	・ここ数か月は予約状況、客単価共に特段の変化はみられない（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行は、大阪・関西万博の開始後に関西方面の問合せが増え始めている。ただし、ホテルの供給不足や宿泊費の高騰もあり、万博以外のレジャーや出張需要に影響が出ている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・良くも悪くも客からの問合せ等が多くなっている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・物価の上昇が止まらない（東京都）。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の客の動きが大分少なくなっている。生活習慣で夜の客引けが早くなっている（東京都）。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・新年度になり、機器等が値上がりし、景気が悪くなると予想していたが、今月はなぜか2～3か月前と比べて案件が増加傾向である（東京都）。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・前年同月比や3か月トレンドから見ても余り変化はなく、しばらくは様子見である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に無駄を省いて必要最小限のプランを選択する意識は相変わらず強い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・徐々にではあるが、物価高を受け入れ、いかに収入を増やすかを考え始めている（東京都）。
		通信会社（経理担当）	お客様の様子	・生活費が掛かるため、何かと家で済ませているという話を客からよく聞くようになっている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・5月にはインフラ更新が完了して営業可能となるが、それまでは他社に劣化した状況が続いているため、変わらない（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・中小企業の賃上げが間に合っていない。物価高の継続により実質賃金の低下傾向は変わっていない。
		その他レジャー施設 [ポウリング場]（従業員）	お客様の様子	・シニア会員の来場頻度が減っている。客に聞くと、やはり物価高が影響している様子がうかがえる（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（経営企画担当）	単価の動き	・足元の景気は、インバウンドに支えられて好業績が続いている。特に、高価格帯の商材やサービスへの消費意欲は依然として高く、単価上昇を通じて収益を押し上げる要因となっている（東京都）。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来店頻度がなかなか増えない。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・業務量はほぼ横ばいの状況が続き、特段の変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・米国の関税政策の影響で市場が混乱しており、上向き傾向だった景気に多少水を差されている。ただし、当社の客は富裕層が多く、現時点ではそこまで様子は変わっていない。
		一般小売店 [家電]（経営者）	販売量の動き	・本当に毎月変わらず、良い話が聞こえない。補助金の話が出てきたので、ようやく客が補助金を利用して商材を購入しようという動きが多少みえてきている（東京都）。
		一般小売店 [祭用品]（経営者）	販売量の動き	・寂しい年度始めである。通常の需要がなく、滞っている。
		一般小売店 [酒類]（経営者）	お客様の様子	・以前から状況は変わらない。物価上昇などの理由で節約していると聞くことが多い。
		一般小売店 [文具]（販売企画担当）	販売量の動き	・店頭が余り良くない。近くにディスカウントストアができたこともあり、そちらに客を取られていることもある。当店で購入する客の財布のひもは相当固くなっている。価格は結構上げているが、絶対的な販売量がやや少ないのかもしれない。外商は、今月は物件がなかったこともあり少なくなっている。
		一般小売店 [書店]（総務担当）	それ以外	・仕事柄、従業員から相談も受けるが、ここ2か月は物価上昇により生活が厳しいという話を多く聞いている。先日、春闘が終わったが、世間の水準からかい離する結果となり、昇給率は前年の中小企業の回答水準にも達していない。賃上げが物価上昇に追い付かない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・しばらく好調を維持していた衣料品、家電等の大型テナントが今月に入り苦戦しており、前年実績を下回っている。食料品は前月と比べると多少戻ってきているものの、ほぼ前年並みである。全体の購買点数が減少しており、物価高により必要な物以外の購入を控えている様子がうかがえる。最近は円高傾向が見え始めているため、インバウンドも少し落ち着いてきた感がある（東京都）。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・好不調の差が大きく、全体として厳しい。ファッションが好調ではあるものの、宝飾等の高額品は苦戦が続いている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・米国の関税政策に伴う金融市場の混乱もあり、金融資産を保有する富裕層の客が高額品を購入する際の決定率が悪くなっている（東京都）。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・今月に入って外国人客の減少が大きく影響している。客単価に大きな変化はない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・免税売上は、乗客数は増加しているものの、客単価は低下している。化粧品等の消耗品は相変わらず大きく伸びているが、ラグジュアリー売上は失速している。結果として、全体の売上は前年比でマイナス傾向である。国内現金売上は先行きの不透明感から、ボリュームゾーンである紳士服が前年を下回ってきている（東京都）。
		百貨店（財務担当）	販売量の動き	・円高の影響によるインバウンド販売量及び米国に端を発した関税政策等により、経済の不透明感が増大し、それに伴い国内客の購買量が減少している（東京都）。
		百貨店（管理担当）	販売量の動き	・値上げが相次ぎ、ずっと良かった食品も売上がストップして下降気味になってきている。衣料品も季節の変わり目にもかかわらず動きが悪い（東京都）。
		百貨店（店長）	それ以外	・米国の関税、株価の乱高下に加え、米不足、原油価格高騰などに改善がみられない。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が減っている。
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・乗客数は減っていないが、販売点数が落ちている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・余り天候が良くなかった影響もあるとみている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・全商材の価格上昇が止まらず、客が比較的安価な近隣の大型スーパー、ディスカウント店に流れ、コンビニへの来店頻度が減り、買上点数が大幅に減少している。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・気温が上がらず春夏物の買物マインドが上がらないことに加え、物価の上昇により客が必要な物以外を買い控えており、来客数は減少傾向である。
		衣料品専門店（従業員）	販売量の動き	・今月も物価高が続いており、余計な物を買わない流れが出ている。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・物価が上昇している。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・乗換え時期ではあるものの、車検や修理をすることで乗換えを延期し、購入をちゅうちょしている（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新車のオプション契約が極端に減っている。また、車検についても最低限で行ってほしいという要望やディーラー車検より安価な車検専門店を受ける客があり、やはりゆとりがない。食品などの物価が全体的に上がっているなかで、車の経費を少しでも抑えたい様子がうかがえる。景気は悪い（東京都）。
		高級レストラン（役員）	それ以外	・前月に引き続き、乗客数、予約、売上などは上昇基調である。仕入価格、経費の上昇により、価格転嫁はしているものの、利益は厳しい。加えて、米国の関税政策、株価の不安定要素により悪化傾向である（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	単価の動き	・コーヒー豆の製造については上がっているが、飲食店の客が減っている。日用品の価格が上がり、外食を控える傾向にあり、価格に対してとてもシビアになっている。大きく値上げをしたわけではないが、客足が減っている（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・米国の関税政策に関して客が混乱しており、果たして計画どおり旅行していいのかと非常に迷っている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・旅行費用の全てが上昇しているが、客の予算がそれに追いついていない。結果として、旅行を断念するケースが出てきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・例年どおりではあるが、タクシーの売上はゴールデンウィークに向かって1年で最も厳しくなる。今も徐々に客が減っている（東京都）。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・昼間の人が出がなく、暇である。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・食品品の高値が常態化しているが、買い控えるわけにもいかず、結果として、嗜好品にシワ寄せがきている。当社の基本サービスでは営業は少ないものの、オプション商材のセールスは非常に厳しい（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規契約数が減少している。既存の契約者も、より低価格なサービスへの移行を希望する客が増加している。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・米国政権の政策の影響を想定以上に受けている。このまま影響が長引きそうな雰囲気である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前年比では実績が若干下振れしている。これは地域限定の要因ではなく、全国的なものである（東京都）。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・インバウンドは好調ではあるものの、今後の円高の影響を懸念している。国内客については前年より客足が鈍っている。物価上昇の影響があるとみている（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	それ以外	・米を始めあらゆる物、エネルギー等の価格上昇は生活に影響するため、旅行やレジャーに費やす予算が減っている。ゴルフもその1つである。米国大統領の影響は大きく、国内経済に不安を抱き、今後の景気への影響が懸念される。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・タレントを使ったキャンペーンも落ち着き、売上が20%ほど落ちている。
		その他サービス [立体駐車場] (経営者)	お客様の様子	・春の異動シーズンで、契約者や常連客が減少している。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	単価の動き	・仕入価格が上昇している。
		設計事務所（職員）	それ以外	・物価高による影響が大きい。特に、民間における建築事業の中止が目立っている（東京都）。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注が落ち込んでいる。
	×	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・3月以降、インバウンドの鈍化が顕著になっている。特に、中国人客の購買単価が前年比で大幅に低下している。来客数は横ばいのため、高額品購買の鈍化など、消費行動の変容がうかがえる。一方、国内客の売上動向も厳しく、各種値上げの影響が出ていると推察される（東京都）。
	×	乗用車販売店 (営業)	販売量の動き	・新型車が発売を再開したが、想定ほど伸びていない。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3月は送別会があるため夜も客が来店していたが、最近は歓迎会が全くないようで、今月の夜は個人客が少人数ずつで来店するくらいであった。
	×	通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・案件数が非常に少なくなっており、売上増加の見込みがない（東京都）。
	×	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・4月の繁忙期に入り稼働率は改善してきたが、来場者の中心が会員であることは変わらず、収益性の改善は極めて限定的である。例年であれば、4月は一定のビジター来場があるが、今年の落ち込みは3月に続いて近年みられない水準で、物価上昇、実質賃金の減少から生活防衛を意識する動きはかなり強い。また、止まらない物価上昇により営業費用はかさむ一方であり、利益を創出できる状況にない。特に、ボイラーや暖房需要のため燃料費の負担が増えるなかでの激変緩和補助金事業の縮小、米を始めとする食品の継続的な高騰が大きな痛手である。企業も国民も疲弊し悲鳴を上げている。
	×	設計事務所（経営者）	それ以外	・現在は、物件が余り出ていない上に、新築しようという客はなかなか見受けられない状況にある。住宅展示場や建築関係の施設に行っても、先が見通せないため、全体的に不景気になっており、実際の受注も減っている。
	×	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約65%となり、景気は悪い。また、3か月前と比べても販売量は約70%と悪くなっている。前月は販売が好調だったが、4月に入り来場者数、商談数が急激に落ち込んでいる。新年度を迎えて何かと忙しく、住宅を検討している時間がなくなったものとみられる。
	×	その他住宅[住宅資材] (営業)	販売量の動き	・建築資材に一定の需要はあるものの一服感が強く、活気がみられない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連 (南関東)		*	*	*
		食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・イベント、集会の注文が増えてきている。また、値 上げが受け入れられている。
		電気機械器具製 造業(企画担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・半導体の大口価格が安定しており、加えてA I関連 製品の受注拡大が継続している。
		精密機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・底を打った感はあるが、米国の関税問題で気を緩め られない。
		輸送業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・先行きは不安要素が多いが、足元では堅調に受注、 販売している(東京都)。
		その他非製造業 [商社] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・受注状況からみて、やや良くなっている(東京 都)。
		出版・印刷・同 関連産業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・今年に入ってから、3月以外はずっと受注量が少な く、景気の悪さは変わらない(東京都)。
		出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷などをしている。インター ネットでの受注のほか、実店舗でも注文を受けてい る。今月は会社設立に関する印鑑の注文が4本あっ た。大体いつも3~4本なので変わらない。電機メー カーからゴム印の特需もあったが、これは例年どおり 4月の特需であり、景気の流れとは関係ない(東京 都)。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・物価は上昇傾向にあるが、動きはそれほど悪くなっ ていない。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・化粧品容器、医療品容器共に受注の勢いが続かない 。1案件が復活すると1案件が止まるということの 繰り返しである。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・先を予想する内示数量が増えてこない。また、米国の 関税の影響がどう出るか分からない。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・新年度予算が動き出したが、少量低価格で利益が出 にくい。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・前月ドイツの展示会に行ってきたが、例年と比べて 来場者数が少なかった。戦争が長引いていることや、 米国の政策が見通せず株価が下落していることなど、 先行きは決して楽観できない(東京都)。
		建設業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・物価の高止まりで景気が停滞している。いろいろな 法案があるので、実行されれば少しは良くなるのでは ないか。
		建設業(経営 者)	取引先の様子	・取引先に内容を聞くと、受注量が減っており、他業 種でも同じように減少しているとのことである。季節 柄もあるが、良い話はない。
		建設業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・燃料費がかなり高騰しているため、解体の受注量が 増えてもやや厳しい状況が続いている。
		輸送業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・取扱量が低量安定しており、積載効率の悪化、収入 の減少等への対応に大変苦慮している(東京都)。
		輸送業(経理担 当)	受注量や販売量 の動き	・物量は少しずつ増えているが、人件費、燃料費の高 騰が続いており、収益が薄い。
		輸送業(総務担 当)	取引先の様子	・繁忙期が終わり、物量は落ち着いている。ただし、 燃料価格の高騰が続いているため、収益は良くない。
		通信業(広報担 当)	受注量や販売量 の動き	・前年割れが続いている(東京都)。
	金融業(総務担 当)	取引先の様子	・建設業はいまだに資材高騰が続き、値上がり分を全 額価格に転嫁できず、利益率が低下している。また、 人手不足から人件費が上がり、ますます厳しくなっ ている。不動産業は地価が高止まりしており、住宅ロ ーン金利も上がっているため、販売に少し陰りが出て きている。小売業は値上げが続き、消費者は必要な 物や割安な物しか購入しない。飲食業は人手不足から アルバイトの時給を上げているが、なかなか人手が 集まらず対応に苦慮している。運送業では燃料費の 高騰と人手不足により利益が大幅に減少している。 総合的に、景気はやや悪い(東京都)。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・ロシアによるウクライナ侵攻以降続いている原料価格高騰を吸収し切れない企業が増えている。客離れを懸念して、度重なる値上げにちゅうちょしているメーカーや小売店、元請に原価高騰の価格転嫁を行えない製造業など、急激な物価上昇の影響で取引先の業況、資金繰りにゆがみが生じているが、3か月前と比較すれば大きな変動はない。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・最近、立て続けに低価格の部屋を探しに来た後期高齢者の客がいた。取壊しのため緊急で探している夫婦、夫に先立たれて1人で住む部屋を探している女性である。アルバイトで多少の収入はあるものの、年金生活のため、築年数の新しい物件は予算的に紹介できず、古い物件を何とか紹介した（東京都）。
		不動産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・物価及び人件費が上昇しているが、不動産販売価格は高値を維持しており、販売自体も好調である（東京都）。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・期初は相変わらずのスロースタートとなっている（東京都）。
		税理士	それ以外	・夜に商店街の飲食店を窓越しにのぞくと、新型コロナウイルス感染症発生前は結構客が入っていた店でも今はそこまで入っていない。まだ以前の水準まで回復していない（東京都）。
		税理士	取引先の様子	・米国の関税政策に脅かされて株価は下落、円も高めに推移し、債権も値を下げ、脅威を感じた矢先に、90日間の凍結や中国との関税競争回避の現状に市場も落ち着きを取り戻しつつある。物価高は長年のデフレを考えれば仕方ないことである。
		社会保険労務士	取引先の様子	・返済不要の助成金や補助金を活用したい会社が多く見受けられる（東京都）。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	それ以外	・入札案件も落ち着いてきており、売上に大きな変化はない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規の見積案件が減っている（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	競争相手の様子	・同じ場所に出店している企業の販売は直近数か月、前年割れが続いている。当社も、既存店で見れば販売数量は辛うじて前年同数を保っているものの、値上げによる売上増加もあるため、見た目の部分では好調にみえる状況である（東京都）。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	それ以外	・見積依頼等が多いが、受注率の低下が前回より悪化している。
		出版・印刷・関連産業（所長）	取引先の様子	・人手不足の影響もあり、協力会社から依頼案件を断られるケースが目立っている。
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・雑貨品の動きが止まり、低調との話を聞いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前から自動車メーカーの統合等で減ってきていた仕事量が、米国の関税政策の影響で更に押し下がった印象を受けている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・自動車メーカーは米国向け輸出が多いため、米国の関税政策の影響を大きく受けるといわれている。下請も同様で、売上に悪影響を及ぼす。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・米国の関税政策の影響がある。政治も混乱している。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・先行きが不透明である。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・梅雨の時期はいつも落ちる（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・教育産業の客において、以前は複数カテゴリーの申込みがあったところ、申込数が減少するケースが目立っている。財布のひもが固くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小製造業、特に機械金属加工業では、経費、人件費の上昇などコストインパクトが大きく、パートなどの人材採用も難しいため、利益が圧迫されている。下請単価の問題以上に人手不足と人件費の上昇が厳しい（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・問合せ等はあるものの、全体的な受注量はやや低迷気味である。
	×	通信業（従業員）	それ以外	・米国の関税政策によって国内株が大きく影響を受けている（東京都）。
雇用関連		-	-	-
(南関東)		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・社会課題解決型の案件受託が好調である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月採用を予定していたが補充できなかったポジションや業務拡大による増員等での求人依頼が増加しており、3か月前より景気が良い（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣スタッフの人手不足傾向は強いが、年度末での契約終了より契約開始数が上回り、併せて4%前後値上げして成約できたことにより、前年同月比5%以上の業績を出すことができている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣需要において、求人数、求職者数共に増加傾向であり、採用数も増加している。業界、業種共に大きな変動はない。ただし、既存の派遣スタッフの入れ替えなどが多く、他社と枠の取り合いに近い状況となり、新規採用する企業は余り増加していない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・季節性を排除するとほぼ横ばいである（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数は維持しているものの、増員ではなく欠員補充が多い。
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・今月はゴールデンウィーク前ということもあり、求人意欲が少し減退する。連休中は積極的に仕事を探さないだろうという心理が働いている。特別減ることはないが、求人数はやや減少している。ただし、それにより景気が悪くなっているということにはならない。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	採用者数の動き	・最近の傾向として、周辺企業、同業他社で中途採用の意欲が高い状態が続いている（東京都）。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・何とか少し上向いてきているが、状況はかなり厳しい。取引先は中小企業ばかりのため、倒産、廃業もある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・米国の関税政策が話題だが、現在のところ影響を大きく受けているという企業はみられない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・各種企業、メーカー、製造業、販売業等からの求人は依然として高いものがあり、幅広い職種での募集がきている。ただし、求職者になかなか適当な人がいないため、困っている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月と比べて求人数が減少している。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・物価の上昇が続いているが、賃金は上がらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・求人数が減り始めている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・エンジニアの引き合いについて具体的な変化は現れていないものの、米国の関税政策の話題が現場でも出ており、新たな引き合いの発生が鈍化傾向にある（東京都）。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・物価や人件費の上昇及び人手不足により閉店した飲食店が複数ある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	求人情報製作会社（経営者）	求人数の動き	・事業撤退や倒産件数が増えてきている。それに伴い、新規事業の中止や新規採用予定の白紙撤回なども増えている（東京都）。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月から、物価高騰による価格改定を行ったが、客からの不満もなく、どちらかというと高額メニューの方が注文されている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月も葬儀の依頼は順調である。目立ったのは墓じまいや仏壇の処分の依頼が多かったことである。亡くなった後の面倒を見てもらえる人がいない人が相談や依頼に来ている。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・前年比では売上は15%増加、来客数は7%減少している。4月から近隣病院の売店に、食料品、弁当の納品が始まった。月曜日から金曜日までの5日間、弁当20個、おにぎり20個、唐揚げ3パック、天ぷら2パックを納品し、金額にして1万4000円ほど、ようやく少し慣れてきたところである。月末にも10万円ほどの仕事が入っており、忙しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・季節要因もあるが、1月と比べて宿泊客数は20%伸びている。4月はアイドルのコンサート需要や、桜を目的としたインバウンドツアーが増加し、来客数や客の動きはかなり良い。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・新年度になり、イベントや会合等も増え、人の動きが良い。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年も例年同様、3月初旬から4月中旬頃まで、学校で新入生向けの販売を行った。物価はいろいろと上がっているが、教具で使うものは必要な物なので、注文数からみても、ほとんど前年実績から落ちていない。大変助かっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・特にこれといった変化も動きもなく、静かな状況が続いている。販売施策を打っても、消費者の購入意欲を引き出せないのが現状である。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・既存店の来客数は安定している。米や卵などの単価上昇で、買上点数は減少しているものの、客単価は微増している。賃上げ効果が出ているのかもしれない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・当店は、単価というか価格面でやや厳しい。客が単価の低い方に魅力を感じていることを年々実感している。物価高の関係で、売上がやや伸び悩んでいる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店が開店したため来客数が減り、その後も戻りが少ない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は前年並みの売上を維持しているが、売上金額が前年並みだけで、販売量自体は若干下がっている。単価が上がった分、例年並みを何とか維持できたという状態なので、変わらない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・以前と変わらず、来客数が減少している。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・タイヤ交換の需要が高まる時期だが、天候に大きく左右されやすく、来客数は前年より減っている。
		その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・単価は確かに上がっている。コスト高で物価が上がっている状況のため、前年より売上は良い。しかし、商材の容量、酒ならばリッター数、米ならば10キロ入りか5キロ入りに変わっていたりと、量的に減っている様子を見ると、状況は良いとはいえない。一方では、まだニーズがあるようで2極化が進んでおり、どちらともいえない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・予想外に低迷が続いている。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・良かったのは11月までで、その後はずっと悪い。物価高と自転車の飲酒運転の取締り強化が原因だとみている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・人件費、材料費、燃料代、電気代等の上昇分を価格転嫁している。特に、首都圏からの客には価格上昇を抵抗なく受け入れてもらえている。地元客は価格上昇の影響で利用が減っているが、それ以上に首都圏からの客が増えているため、景気は比較的良好な状況である。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・団体の動きに変わりはないが、個人の動きが鈍い。ゴールデンウィークについても、物価高や燃料価格の高騰で安近短や日帰り旅行が増加している。前年比でも80%程度となっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・人の動きは昼も夜も悪いが、特に夜の人の動きは最悪である。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・年度替わりで転入居者数は多かったものの、例年ほどではなく、新規加入数も見込みを下回っている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・米国の関税政策等、相変わらず懸念材料が多い。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・ゴルファーの来客状況は変わらない。
		ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・かつてオンシーズンになると行われていたゴルフコンペは、減少している。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・春休みが終わり、学生やファミリー層の利用が減っている。4月末にはゴールデンウィークを迎えるため、利用を控えているのかもしれない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・低温傾向の天候が続き、桜の花持ちが良く、前半は花見客でにぎわいをみせていた。ゴールデンウィーク前半の月末は日並びが悪く、連休のにぎわいが全くない。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・前年はターミナル駅ビルに競合施設のオープンがあったため、前年実績はクリアはしているものの、目標には未達である。世界情勢や物価上昇が、購買意欲にプラスとならない。
		百貨店（店長）	単価の動き	・まとめ買いが減ってきている。慎重に見極めて、1点を買う傾向である。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・客は高単価の物を避け、低価格の物を選択している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候の影響もあるが、来客数が伸びない。米類の販売が減少傾向である。各社値上げの影響が出ており、可処分所得が上がってこないことも一因である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売が鈍化している。供給の正常化で受注残が減っており、物価高による車両やガソリン価格の高騰等も影響して、新車受注が落ち込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は目標をクリアしているが、車両販売は低迷している。例年、この時期は新卒を含めた若者の車両購入の話が多くなるが、現状の物価高に対して、ほとんどの企業で賃上げがないため、車両購入ができないようである。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ここ数か月、個人利用の落ち込みが続いており、確実に悪くなってきて、良い要素がない。週末や連休、季節、天候に関係なく、人の動きが明らかに鈍くなっている。
		観光名所（職員）	単価の動き	・来客数は増加しているものの、原材料価格高騰の影響で、飲食、売店商材共に大幅に値上がりしているため、価格を見て購入を見送る客も多い。
	×	スーパー（店長）	単価の動き	・値上げが続いていることもあり、特売品やセール実施日への客の関心が高くなっている。
	×	スーパー（副店長）	お客様の様子	・国が備蓄米を放出しても、米の入荷がほとんどなく、価格も高止まり状態である。ガソリンや電気代等の必需品の価格が極めて高く、買上点数が伸びず、買い控え傾向が続いている。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価高、米不足、増税等で景気が上向き見込みが全くない。4月初めは春休みで来客数も増えていたが、休みが終わると同時に前年割れしており、客単価も低い。今後は政治的要素で変わってくるとみている。
	×	遊園地（職員）	来客数の動き	・天候も良く、イベントを数多く打ち出したが、入場者数が伸び悩む結果となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連 (甲信越)		窯業・土石製品 製造業（経営 者）	取引先の様子	・大口受注の対応に追われている。
		食料品製造業 （製造担当）	それ以外	・商材を値上げしたが、1～2割程度の落ち込みで済んでいる。引き続き、学校給食関係の取引があることが大きい。
		建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・少しずつではあるが、小口の受注が出てきている。
		新聞販売店〔広 告〕（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・折込広告は旅行関連、スーパー、通販関係が好調で、前年より出稿数が伸びている。
		電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・単発ではあるものの受注はあり、一時的だが仕事量は確保できている。他の仕事は差があるため、平均すると上向きとは言い難い。
		金融業（調査担 当）	取引先の様子	・非製造業は観光関連を中心に国内、インバウンド需要共に堅調である。一方、製造業はIT関連の在庫調整が長引いており、持ち直しに力強さがみられず、全体として足踏み状態にある。
		金融業（経営企 画担当）	取引先の様子	・インバウンドの回復により、関連業種の景気は上向いている。一方、その他の業種は物価高などの影響を受け、下向きとなっている。総じて変わらない。
		食料品製造業 （営業統括）	競争相手の様子	・各メーカーともシンガポール、台湾等に輸出を試みているが、現状、十分な成果を得られていない。
		その他製造業 〔宝石・貴金 属〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・宝飾品の材料である地金価格の高騰が止まらない。客の買いやすい価格帯で商材作りができないことが、買い控えの原因になっている。
		x	*	*
雇用 関連 (甲信越)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣会社 （営業担当）	求職者数の動き	・相変わらず、求人依頼は多いものの、求職者は少ない。条件だけで仕事を探すが求職者が多く、なかなか難しい。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数を前年同月比で見ると、ほとんどの産業が増減を繰り返している状況にある。ただし、生活関連サービス業、娯楽業については、減少傾向がみられる。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・3月の求人受理状況は、前月同様、管内主要産業の1つであるサービス業のうち、労働者派遣業の求人が前年同月比8割減少している。前年は、好調な製造業複数社から求人が出され、一定数充足したことも要因だが、今年は製造業の派遣求人を中心に減少が目立っている。
	x	-	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・個人旅行はマイカー利用の若年層を中心に増加している。高年層のバス旅行は遅々として回復しない。旅行形態が大きく変わってきている感が否めない。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・4月に入って来客数が伸長しており、例年と比べても全体的に来客数が多い。特に平日夕方と週末が伸びている。急に暑くなったこともあり、飲料や酒などの消費が好調である。
		旅行代理店（営 業担当）	単価の動き	・航空運賃、観光地の宿泊費やバス代などが高騰しているが、客もそれを理解しており、旅行単価の上昇につながっている。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・インバウンドが好調である。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・前年より少し売上が上がってきている。
		スーパー（店 員）	来客数の動き	・大型店の閉店により、その店を利用していた客が確実に自店に流れており客層が変わってきている。
		スーパー（販売 担当）	販売量の動き	・値上げ基調は変わらないが、生活必需品の購入には余り影響がない様子である。米や燃料の高止まりも他の食品や代替交通で何とかカバーしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに入り天候も良いため、週末のみでなく平日も来客数が増加した。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・値上げ以上に客単価が伸長することで、売上は増加傾向である。特に米飯やパン類が好調である。高価格帯の商品でも売上は好調だが、米不足による米飯の値上げがかなり激しいため、不安が大きい。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・売上が前年比では数%増加している店舗が多い。来客数が前年割れしている店舗も客単価の上昇により売上が前年を上回っている。
		コンビニ（商品企画担当）	単価の動き	・値上げの影響による客単価の伸長が来客数の伸びを上回っており、引き続き売上が伸長傾向にある。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・人気車種の多くは販売停止で購入できないが、少ない販売枠を多くの人々が求めるため値引きをしなくても売れる状況であり、販売台数は減っても利益が出るようになっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・国内外の多くの自動車メーカーが生産を停止したり遅らせたりしていることで、売れる月と売れない月の境がなくなってきている。通常売上が落ち込む4月が3月以上に売れ、新規客の来店も多かった。
		その他専門店【書籍】（社員）	販売量の動き	・新年度向けの需要が増え、販売量の増加がみられる。
		その他小売【ショッピングセンター】（経理担当）	来客数の動き	・足元は堅調だが、今後の物価高、米国の関税の動向など景気に影響する面があり注視が必要である。
		観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・今月の営業成績は前年比、予算比とも上回る見込みである。桜見物目当てのインバウンドや月初めの国際的な自動車レース開催など大きな宿泊需要があった。
		都市型ホテル（総支配人）	単価の動き	・宿泊は、季節要因でインバウンドも多いため価格も上昇傾向である。レストランは昼を中心に客足が伸びる。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・大阪・関西万博が始まり、社会的に大きな不安要素もみられないため景気はやや良くなりつつある。
		美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・今月から開始したキャンペーンの成果があり、新規客の来店が増えた。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前は非常に寒い時期で出足が悪かったが、その頃に比べると最近天候が暖かくなり外出の機会も増えたため来客数もそれなりに伸びた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数は依然として高止まりしている。客単価は物価上昇と購買数減少の相殺で横ばいである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・米や野菜等の食料品やガソリンなど生活必需品の価格が上昇を続けており、家計を圧迫している話をよく聞く。生活必需品以外に消費を回す余裕のない人が多く見受けられる。
		一般小売店【生花】（経営者）	販売量の動き	・仕入価格は上がっているが、極力値上げはしないよう努力している。販売量はほぼ横ばいが続いている。出費が増えているため必要な物だけを買う様子がうかがえる。
		一般小売店【贈答品】（経営者）	お客様の様子	・新年度を迎え、商品値上げがあったなかでも大企業を中心に前年並みの注文及び売上があった。ギフト業界においては、大手企業は良好だが、中小企業や個人は物価高で節約傾向にあり財布のひもが固くなっている。大企業が伸びているにもかかわらず、値上げの影響で中小規模・個人の売上が伸びないため全体としての売上は変わらない。
		一般小売店【酒類】（経営者）	来客数の動き	・飲食店の来客数が少ない。来客数がゼロ、若しくは1組しかいないという話をよく聞く。
		一般小売店【生活用品】（販売担当）	販売量の動き	・天候が良くなり来客数は増えているが、購買に結び付かない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数など客の動向は前月と余り変わりがないが、ここ最近は大阪・関西万博の影響か、一時減少していたインバウンドが増えてきた印象を受ける。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・百貨店の客の購入方法は変わらない。金額の大きい物でも、必要な物や欲しいと思う物は迷わず買う。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・購買意欲の低下はみられないが、高額品やまとめ買いが減少している。中価格帯が稼働しているため、来客数は大きく変わらないが売上は伸び悩んでいる。インバウンドは安定しているが、こちらも中価格帯の動きが大きい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ガソリンや電気代への補助が検討されているが、どれも一時的なもので、まだ商品の値上げが続くなかでは消費者の節約志向は続く。
		スーパー（店員）	単価の動き	・春休みの行楽シーズンを迎えて飲料や菓子などの売上が上がったが、米の値段の高止まりや豆腐などの値上がりは売上に微妙に影響を与えている。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・米の品薄、商品の値上げはあるものの、トータルの売上は以前と同様に好調である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年割れしている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・最近では来客数に増減がない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客の節約傾向を強く感じながらも、4月は比較的天候にも恵まれ、各種キャンペーンなどの販売促進企画も効果を示し、前年比100%であった。来客数は微減、客単価は微増で売上としては同額となった。可もなく不可もなくといった印象を受ける。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・日本人客の動きはここ数が月特に変っていない。インバウンドが週末や夜間に安定的に来店している。
		コンビニ（本部管理担当）	単価の動き	・4月の日商前年比は速報で102.4%であった。物価高による客単価上昇で店舗の日商も伸長した。ただし、この現象は本質的に景気を押し下げる可能性があり、油断ができない状況である。現時点では日商が上昇しているが、物価高の効果が今後凶と出る可能性もあり景気の方向性が読めない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・法人の注文が減少しており、物価上昇や関税の問題で地域経済が冷えている。経費での大量注文を控える傾向がある。
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・商品によって動いているものと止まっているものがある。全体的に、例年どおりの売上である。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・必要な物以外は購入を控えたいという客の声がある。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・車検など必要最低限は実施するが、点検の来客数が減っている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・例年4月に入ると販売台数が下がるが、今年は販売台数が安定して増えている。納期が遅れていることが気掛かりである。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・客との会話で、生活に必要な物の価格が高くなり生活が苦しい、生活にゆとりが持てなくなったという声が多く聞かれる。物価上昇により、生活を切り詰めなければとの感覚が強くなり、今必要とされるものの購入を第一に考え、それ以外の物への購入意欲は更に弱まっている。
		高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・ランチの来客数は増加傾向にあるが、ディナーは前年並みで推移している。4月は週末にかけ歓迎会やハレの日の需要が好調に推移している。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・常連客は高齢者層が多いため、体調に不安のある人が増えて来店が少なくなっており、難しい経営状態である。
		一般レストラン（従業員）	単価の動き	・値上げの連絡が後を絶たない。
		その他飲食[ワイン輸入]（経営企画担当）	お客様の様子	・次々と物価が上がっているが、物価上昇に対して消費者はそれほど悲観的ではない。給与も上がっており、生活は楽ではないが消費を控えるまでには至っていない。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・年明け以降、インバウンドの増加はそれほどみられないが、天候の良さと、団体客の予約の後に個人客からのネット予約が入ったことにより団体客と個人客のバランスがうまくかみ合い、結果として前年比では5～8%ほど宿泊客数が伸びている。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・米国の関税など気になる動きはあるが、現段階で直接的な影響はまだみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・来客数、客単価は良い状態を維持しているが、為替の影響や株の乱高下など不透明な要素を含んでいる。レストランの同窓会、歓送迎会や企業接待等の利用は変わらず高止まりしている。
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・物価の上昇が個人客の懐具合に影響しており、旅行に対する出費が控えられている。
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・客の動向が2極化しており、趣味などをいかす旅行については前向きな参加傾向にあるが衝動的な旅行はやや減っている。ただし、大阪・関西万博については60代から70代がテレビで見ている興味があつた様子で、問合せも増えている。夏の旅行についても少しずつ問合せが増えているが、北海道や沖縄が人気で、海外旅行はアジア圏が多い。中にはグアムやハワイを計画する話も出ているが、宿泊先をどのホテルにするかが悩ましく、値段には大変厳しい。
		旅行代理店(営 業担当)	お客様の様子	・ホテル宿泊料金が首都圏、関西都心部を中心に尋常ではない値上がりが続いており、高騰した宿泊料では旅行を見直したり、取りやめたりする客が増えている。ゴールデンウィークに突入したが旅行に出掛ける人は頭打ちの状態、減ることはあっても増えることはない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・季節の移り変わりとともに客の動きは良くなっているが、週末はそれなりの出足があるものの、週初めは非常に出足が悪く、全体の動向としては以前から変化がみられない。
		通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・解約件数は前月に続いて低めに推移しているものの、新規契約件数もさほど伸びておらず、どちらともいえない状況である。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・今年のゴールデンウィークは前半が飛び石連休であるため、前年より来客数が少ない。
		テーマパーク職 員(総務担当)	来客数の動き	・イベント等の開催日は比較的良好な天候に恵まれたが、来客数は思ったほど伸びず、ここ最近では前年度よりやや多い状態で推移している。
		観光名所(案内 係)	お客様の様子	・周りから景気が良いという話はほとんど聞かない。
		美容室(経営 者)	お客様の様子	・客との話では誰もが物価高を嘆いており、あまり景気が良い状態ではない。
		設計事務所(経 営者)	来客数の動き	・悪い状態が変わらない。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・3月が終わり客足はゴールデンウィークまで小休止である。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・材料費や人件費の高騰で販売量が横ばいである。
		その他住宅[不 動産賃貸及び売 買](営業)	単価の動き	・単価が高くなり売上が上がらない。
		一般小売店[高 級精肉](常勤 監査役)	販売量の動き	・米国の関税問題がどうなるか先が見えず、景気に影響する。
		百貨店(売場主 任)	お客様の様子	・開店から15時頃までは来客数に対して購入に至る客が少なく、売上が伸び悩む時間帯である。インバウンドがまた少し増えてきたが、商品のみをみただけで実際に購入する人は少ない。
		百貨店(総務担 当)	お客様の様子	・食料品、特に米の値上げについて報道される機会が多く、消費者が衣料品や雑貨などの購買を控えつつある。また、株価の乱高下などによる逆資産効果により、高額品の受注が低減傾向にある。米国関税の影響や、4月前半の気温が低かったこと、インバウンド需要が一巡して前年を下回ったことから、これまで好調だった売上也厳しい状況である。
		百貨店(経理担 当)	販売量の動き	・客単価が下落していることに加え、インバウンドの売上が大きく落ち込んでいる。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・来客数、買上点数が前年を超えない。
		スーパー(経営 者)	販売量の動き	・国産の野菜や果物の高騰、品不足が続き、加工品や輸入品に移ったものが幾つかあったことで、売上が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・アルコール飲料の売上が激しく落ち込み、全体の売上も前年割れとなった。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・デパートに出掛けたら売場が変わっていて疲れてしまったといった来店し、自店のリピーターになってくれる客が少しおり、老舗として長く商売をしてきたかがある。
		衣料品専門店(売場担当)	販売量の動き	・時期的にオフィスカジュアルが中心となり、スーツが売れなくなっている。1～3月と比べ、全くスーツが売れない日が多くなった。オフィスカジュアルの商品を店頭に出しているが、立地が大手ファストファッションブランドの隣であるためそちらに客が流れてしまう。いくら質の良い商品でも、ファストファッションに比べると価格が高いため客足が遠のいている。今月の売上はかなり落ち込んでおり、夏に向けてどうばん回すかが検討事項である。
		家電量販店(店員)	単価の動き	・必要最低限の買換えのみで、価格は抑えめの商品が選ばれがちである。
		家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・今月の後半にエアコンが動き始めたが、全体的に目的を持って来店する客がほとんどで、その分しっかりと商品や価格を調べてきており、納得いく価格でないとなかなか購入に至らない。
		家電量販店(フランチャイズ経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークに入ってから来客数が減少している。自店のような小型店には目的買いの来客が多いが、日用品の売上が減っている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型車種が発売されないこともあり、来客数が減り、4月としてはコロナ禍並みの実績であった。ガソリンの価格高騰の影響もあり、軽自動車は好調だが、普通車の売行きは芳しくなく、良い状況ではない。
		乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・例年の4月と比べると若干動きが鈍い。全体的な販売量はそれほど変わらないが、来客数、アクセス数共に例年よりやや少なく、3か月前と比べてもやや鈍い。
		住関連専門店(営業担当)	販売量の動き	・米関税の影響の様子をみて新築・改修工事を考えるという声が出始めている。小規模物件については改修工事が予定どおり続いているが、新築物件の需要減少が心配である。
		その他専門店[貴金属](経営者)	来客数の動き	・入学・新社会人のシーズンであるが、今年は物価高騰、米関税、米価格高騰や国内政治不安などの問題材料が多く、消費者購買心理が低迷している。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・新年度になり、客の生活環境が変わったためか来客数が減少している。
		その他飲食[仕出し](経営者)	単価の動き	・物価高や米国の関税の不安感などマイナスの要素があるなかで景気はネガティブな方を向いている。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・個人需要は減っていない。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・米の高騰を始めとして、様々な飲食料品などが値上がりしており、消費者はメリハリのある買物をしている。近隣に高級品スーパーが開店したが、駐車場は空きが目立ち、客も割引品などを目当てに時間帯を決めて訪れている様子である。
		テーマパーク(職員)	来客数の動き	・大阪・関西万博、パンダの中国返還やゴールデンウィークの日並びにより悪影響が出ている。
		ゴルフ場(経営者)	お客様の様子	・価格転嫁に対する反応がシビアである。
		パチンコ店(経営者)	販売量の動き	・売上の減少がみられる。客の来店頻度が明らかに減っている。
		パチンコ店(従業員)	販売量の動き	・自営業所を含む市場全体が来客数、売上ともに微減した。集客施策の費用対効果が薄い時期でもあるため、イベント実施に対し消極的である。
		理美容室(経営者)	来客数の動き	・季節的に4月は天候が暖かくなり来客が期待できる時期だが、あまり来客数が伸びない。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・物価の上昇が厳しく、美容院への支出を抑えている様子がうかがえる。
		その他サービス[介護サービス](職員)	単価の動き	・介護保険サービスの福祉用具費で10月以降反映の上限価格が発表される。先日新規採用した商品の価格も、早速価格調整で14%ほど値段を下げる必要が出てきた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所(職員)	お客様の様子	・客から景気が良くなるような話を聞かない。
		その他住宅[住宅管理](経営者)	単価の動き	・売上は横ばいで良くない状態が続いている。仕入価格が今後下がる見込みはなく、販売価格にそのまま転嫁することもできないため苦戦が続く。
		その他住宅[展示場](従業員)	お客様の様子	・新年度に入り、現地事務所の規模縮小などの再編成を進める企業が多くなった。
	x	商店街(代表者)	お客様の様子	・米価格が高騰しており、その他の物も4月に入って大きく値上げされた。収入が定期的に増加しているわけではないため、物価が上がれば生活が苦しくなり財布のひもは固くなる。この状況で景気が良い方向に向かうわけがない。
	x	一般小売店[結納品](経営者)	単価の動き	・例年は春になると少し上向くものだが、今年は全くその気配がない。
	x	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・米国の関税の影響により、特に富裕層の消費マインドが著しく低下している。
	x	タクシー運転手	お客様の様子	・物価高騰に対する政府の政策にはあまり効果がみられない。
	x	住宅販売会社(経営者)	単価の動き	・建築資材が値上がりし、なかなか利益が出ない。
	x	住宅販売会社(従業員)	それ以外	・今まで休みがなかなか取れないといていた下請業者が土日に休めるようになった。
企業 動向 関連 (東海)		-	-	-
		化学工業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・最先端のAI向けに使用される電子材料薬品用クリーン容器の需要が国内、海外ともに好調である。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今月はメインの取引先の年度替わりで、全体的に設備投資の対象となる項目が多かったため受注量が増加した。
		食料品製造業(社員)	取引先の様子	・国内外ともに受注量は大きな変化がない。
		化学工業(総務秘書)	それ以外	・米国の関税で株価や為替の乱高下が発生しているが、直ちに日本経済に悪影響を及ぼしているわけではない。初任給の引上げやそれに伴う既存社員の処遇向上が報道されており、現状は横ばいでとどまっている。
		窯業・土石製品製造業(社員)	取引先の様子	・半導体関係の回復によって客の稼働は順調で、電動車両に関係する二次電池や磁石関連も順調に稼働している。
		金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今年は例年と比べてプロジェクトの動きが鈍いといわれており、実際受注量もさほど伸びていない。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・生産量に数%の増減はあるものの、ここ3~4か月ほど横ばいが続いている。
		輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	取引先の様子	・客先の生産計画をみると、ゴールデンウィーク明けからやや微増する。
		輸送用機械器具製造業(管理担当)	それ以外	・いまだ続くガソリン、米の価格高騰、各種値上げでいつ物価が安定するのか、不安しかない。
		建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・建設業としては先々まで受注が安定している。不動産分譲は、年度が替わった4月は客の動きが鈍く、成約件数も予定を下回った。
		建設業(営業担当)	取引先の様子	・取引先の経営状態が余り良くないため、支払が分割になり価格の見直しの相談をよく受けるようになった。
		輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・国内消費財の荷動きが悪い状態が続いている。海外商品の輸入頻度も下がっている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・賃金は上昇しているといわれるが、同時に物価も上昇しているため実感が無い。個人消費も伸びていないため、企業の物量は鈍化傾向である。
	輸送業(従業員)	取引先の様子	・自社が荷受人から預かる取扱量は3か月前と比べて横ばいであり、景気は変わっていない。	
	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3月は繁忙期であり受注量もほぼ例年並みであったが、その反動か4月は今のところ落ち着いている。例年4月は同様の状況であるが、今年はいつもの以上に静かで、連休前のパタパタもさほどみられない。新年度の開始としては少し物足りない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（法人営業担当）	受注量や販売量の動き	・国際調達となる高額入札案件が少なくなった。例年、年度末から年度初めにかけては5000万円超レベルの案件の値決めに苦労していたが、今年度は1案件しかなかった。案件を一括調達しないで小分けにすることでこのような見え方になっているのか、そもそも大規模投資が減っているのかは不明である。
		金融業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・中小企業ではまだ賃上げや仕入価格の上昇を受注価格に転嫁できていないため、原価率が上がり、経営には負担が大きい。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも雨の日は多いが、暖かい日が多いこともあり、徒歩や自転車での外出や車での外出が増加傾向にある。今月の売上は前年をやや上回る状況である。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・新年度になっても物価高は継続しているため、企業側からの広告発注量は余り変わらず、特に変化はみられない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注価格や販売価格の動き	・取引業者は人事異動の時期にあり、後任引継ぎ前に取扱いリース物件などを整理し入替を提案しているため、一時的な固定取引が増加した。長期的にみれば、経営安定につながる。
		公認会計士	取引先の様子	・米国の関税による世界経済の不確実性が高まり、様子見をしている企業が多い。自動車産業や外国人向けの需要が多く、売上が前年を上回る企業が多い。しかし、物価高による原材料の価格上昇を上回るほどの売上はなく、利益ベースでみると横ばいである。
		会計事務所（職員）	それ以外	・1日2公演を2日間行うイベントに参加した。全4回の公演全てに参加すると特典があったが、1公演約2万円のチケットを4枚買った人がおよそ100人おり、飛行機で来た人もいる。こういうケースを目にすると、景気は良い方向に向かっていると実感する。
		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・秋に値上げた商品の販売数量が減少しており、消費者の商品選択基準が非常に厳しくなってきたことを実感する。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・米国大統領の関税引上げの発表は自動車業界を中心に全ての業界に影響があり、受注量、販売量共に減少して、景気はやや悪化した。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・米国の関税がどうなるのか様子見ということで、北米や中国での半導体向け設備投資がやや低調である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・関税の影響が出ている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・米国の関税によってビジネスが停滞している。この問題が解決するまで、思い切った投資は難しい。
		通信業（総務担当）	それ以外	・物価高騰に歯止めがかからず、日々値上げラッシュが続いて生活苦に陥っているため、現役世代も年金世代も四苦八苦しており、景気の良しあしを語る余裕がない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・米価格や物価の上昇により生活費が膨張し、日常生活が苦しくなっているという声が多い。
		金融業（従業員）	それ以外	・身の回りの様子から、あらゆる物価の上昇に歯止めがかからず、苦しい生活状況が続いている印象を受ける。一部減税や補助金もあるが、良い影響は限定的である。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気が停滞しているが、こういうときこそ先駆けて新しいことや技術を投入しなければ半年後に遅れを取る。
	×	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当地域の企業の設備投資などが、自動車関税の今後の動きが見えないことで停滞している。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に減少しており、引き合いも減少している。
雇用関連		-	-	-
		*	*	*
(東海)		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数が3月と比較し同程度で変わらない。しかし、求人者、求職者共に要求水準が高くマッチングには苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		アウトソーシング企業（エリア担当）	採用者数の動き	・中小企業における新入社員の入社は少なく、賃上げにおいても大手企業のように大幅アップとまではいかないため、人材確保が深刻な問題となっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・医療、介護、保育、警備、建設や運輸の人手不足分野を中心に人手不足の企業がある。一方で、技能実習生などの活用による体制確保のほか、一部企業からは業務効率化などにより人手不足が緩和しているといった声を聞いた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数について、3か月前と比較して全体的に1.0%減少し微減となった。産業別では、製造業、医療福祉業の新規求人数が大幅に増加、建設業、運輸・郵便業、卸売小売業や宿泊・飲食サービス業の新規求人数は減少した。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・人手不足感や人件費、材料価格の高騰で減益傾向ではあるものの、DX化等に取り組む企業が多数見受けられ、飲食業で大きな増益としている企業もある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・人材不足の状況は継続しているものの、価格高騰、価格転嫁の低迷、賃上げなどで、中小企業からの求人数が減少傾向にある。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・米国からの追加関税施策の影響により、採用を手控える法人側の動向が見られる。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・引き続き物価高の波は収まる気配がなく、更に上昇していることから中小企業を中心に利益確保が困難な状況に陥っている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月は法人関係の送別会の利用が多かったが、今月に入ってから新人研修会が思いの外少ない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・米国の関税の影響がある。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・これまで人材紹介会社に自社の求人作成依頼を行うと完了まで1か月以上掛かっていたが、今月は10日程で作成が完了しており、周辺企業の求人作成依頼件数が減っている可能性がある。人材紹介会社からも、米国の関税の影響で周辺企業は様子見の姿勢と聞いており、東海エリアでの求人量の増加ペースは一服していると推察する。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・通常4月は採用者数が増加する傾向にあるため、3か月前比で採用者数は増加しているが、前年同月比では採用者数はマイナスとなっている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・3月の転職需要が一旦落ち着いたため、求人数、求職者数は前月と比べて減少した。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・日米の株価変動が不安定である。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・2024年度の企業業績は、業種や事業内容によって格差が生じた。最高益を出す企業もあれば、厳しい業績に終わった企業もあった。一方4月は米国の関税の動きが当地域の輸出関連企業を中心に不安感を与えるなど全体的に下向きの状況となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数を前年同月比で見ると、ほぼ全ての産業で減少しており、特に飲食・宿泊業や卸売小売業等での減少が大きくなっている。
	x	-	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)		商店街（代表者）	乗客数の動き	・今月もインバウンドが絶好調である。桜の開花にあわせ、欧米人を中心に多くの観光客が来店している。また、焼き物コレクターの客から久しぶりに高額品のまとめ買いがあった。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・前年は客単価が前々年割れ基調であったが、この4月は前年、前々年と比較して上昇している。
		都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・旅行会社からの国内ツアー団体予約の受注が好調である。震災復興需要の反動減により前年と比べて稼働率は下回るものの、前々年比では10%以上の上昇となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客は依然として増えている。4月前半は桜の開花があり景気が良かった。月の後半に入ってから、夜の街はやや人出が減っている。節約志向が始まったようである。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・エネルギーや食料品の急激な価格上昇により、消費者の間でいわゆる消費控えが発生しているが、趣味性、嗜好性の高い競輪事業への影響は少なく、継続的な広告と宣伝の効果が出ている。また、インターネットで全国の車券を購入することができるため、人手不足による宿泊施設の利用料金高騰が客に与える影響も少ない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・山岳観光シーズンの幕開けとともに観光客が多くなり、特に外国人が飲食店や洋服、宝飾品等の買回品店で目立つようになっている。しかし、売上増加や全体的ににぎわうまでには至っていない様子である。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	販売量の動き	・物価高の影響で、まとめ買いを控える客が多い。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数、販売数、売上の減少が続いている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・商品価格の高騰に伴い、特売商品のみ購入する客が増えていたが、最近は特売商品の中でも必要な物しか購入しない様子が見受けられる。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・生活必需品である米や卵の販売単価の上昇が止まらない状況だが、販売数の減少も顕著で、売上は大きく変わらない。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・コンビニ全体が高単価となり、以前は節約するならコンビニであったものが、少しぜいたくする買物場所に変化している。最近では飲料、酒類などの価格が高騰しているため、少しでも安く購入できるドラッグストアやスーパー等へ客が流れている。時間のない仕事の中に、主にスイーツなどで少しぜいたくしたいときにコンビニを利用するような状況で、薄利多売であった事業の多売の部分が消滅している。客単価は上がっているが来客数は激減しているため、売上全体としては減少している。経費も高騰しており、景気は依然として悪い。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・物価高が生活に深く浸透しており、消費者の選択肢を狭めている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向は変わらず強く、必要な物だけを吟味して買っている様子である。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・来客数の減少に伴い、販売量も減っている。なかなか景気回復には向かっていない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・物価高が影響しているのか、地元客の飲食需要が高まらない。絶対数は多くないが、インバウンドは堅調である。
		観光型旅館（経理）	それ以外	・能登半島地震の影響で2024年1月1日以降休業状態である。再開までにまだかなりの期間を要する。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・団体旅行の受注は例年どおりで推移している。大阪・関西万博の効果は限定的で、個人旅行も例年どおりの受注状況である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・人が動き出したものの、物価高が続いているため、無駄な出費を抑える動きがある。利用率が上がっていない。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・客の要望に変化がない。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約数に大きな変化はみられない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売に1年以上の長期間を要した土地及び分譲住宅が契約となった。住宅の請負契約額は前年を上回っている。契約件数はほぼ同じだが、1件当たりの単価が高くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅ローン金利の先高観や建築単価上昇の影響により、注文住宅の問合せは多い。部材値上げの連絡は業者から毎日のように届いており、好調なりフォームにも影響が及ぶのではないかと心配している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建築資材の高騰により景気回復の兆しがみえない。客の動きも鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・客の動きに大きな変化がみられない。
		一般小売店〔精肉〕(店長)	販売量の動き	・様々な物の価格が上がっているため、贈答用商品の販売量が減っている。また、自分たちで消費する分に関しても、単価の高い牛肉から安い豚肉、鶏肉へシフトしている。
		百貨店(売場主任)	来客数の動き	・米国の追加関税による先行きの不透明感からか、これまで堅調に推移し店の売上全体をけん引してきた富裕層による高額品の購入にブレーキが掛かっている。また、円高傾向の影響で、今まで好調だったインバウンドの売上も低迷しているため、ダブルパンチで厳しい状況となっている。
		百貨店(販売促進担当)	それ以外	・春闘で大幅な賃上げが実現され、所得は一定程度増加している実感はあるが、生活に直結する食料品やエネルギー関連等の物価高騰がそれを上回っている。また、米国の関税による世界的な経済不安などマイナス要素の方が強く働いている。
		百貨店(販売担当)	来客数の動き	・経費を掛け、店舗集客の大型催事を実施するが、前年を超える来客数にはつながっていない。さらに、購買率も伸びない上、催事場以外での購入が少ない。購入金額も、駐車代が無料になる金額に近い程度の買上で、目的を済ませ短時間で帰宅する傾向が強い。購入に非常に慎重になっている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・客は家電が壊れるまで買換えない傾向が強い。
		家電量販店(本部)	販売量の動き	・来客数は若干改善しているが、前年あった補助金や地震の復興需要の反動で、厳しい状況が続いている。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・要因はいろいろあるが、物価高が継続しているため、自動車の購入にも慎重な様子が続いている。
		乗用車販売店(役員)	お客様の様子	・関税問題で、特に県内の輸出関連企業の警戒感が顕著である。また、客からは前向きな様子が余りみられない。
		乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・3か月前は販売量が前年を数%超えていたが、今月は前年割れとなっている。特に中古車は、在庫不足もあって受注が大きく前年割れになっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	販売量の動き	・春休み以降、来客数に対して買上率の低下がみられる。物価上昇の不安感から消費マインドが低下していると考ええる。
		一般レストラン(統括)	来客数の動き	・2月頃から前年同月と比べて来客数が若干減少している。前年は北陸応援割などの能登半島地震の復興支援や北陸新幹線の延伸効果で外食需要が高まっていたことが主な要因とみている。また、あらゆる食材が高騰しているため家庭で自由に使える金が減り、外食費などは絞られている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・駅周辺の居酒屋などは若い人で満員と聞かすが、当店は前年同月の8割程度で開店休業状態のときもある。客の年齢層が高いこと、選挙があったことが要因ではないかと考える。当店の周辺も静かであると聞いている。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・新幹線延伸開業効果が薄れ、4月後半のゴールデンウィークの日並びも悪いため、空室が出ている。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門は、国内旅行者数が前年を下回っており、ゴールデンウィーク期間中も飛び石連休のためか前年を下回っている。レストラン部門は夕食の売上が弱い。宴会部門だけが前年を上回っている。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・通信、放送サービス共に新規契約数が前年同期を下回っている。また、解約数については前年より増加傾向にある。
		テーマパーク(役員)	来客数の動き	・北陸新幹線の延伸効果も落ち着き、前年のような北陸応援割もないため、4月の状況はやや悪くなっている。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕(経営者)	単価の動き	・物価上昇により会員の動きが鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店サイクルが延びており、また、格安店にも流れているため、来客数が減少している。明らかに物価高の影響を受けている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・今までは優等生だった食品関連の店でも、来客数が減少している。低価格の商品しか売れないため、売手も価格を据置きにして量を減らすなどの対策がみられる。
	×	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・物価高で商品単価も上がり、客は購入に消極的である。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・店頭販売はかなり少なくなっており、業務用販売が唯一の頼みの綱である。
企業 動向 関連 (北陸)		精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・1～3月と比較して販売量が上向いている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・見積案件の増加や価格提示済案件に対して、詳細の問合せや技術的な打合せ要求等の動きが以前より活発になってきている。また、新規案件の着手に関して、以前と比べて若干増加している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・土木、舗装工事の施工を主としているが、民間工事の受注が予想以上に伸びており、6月末決算予想は期首の予想より倍増する。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者から少し動きが出てきているという話を聞く。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は変化なく推移している。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・関税や株価の変動により、業種によって設備投資の状況が大きく異なっている。
		司法書士	取引先の様子	・事業承継ができなかったことによる解散の登記がある一方で、役員全員の入替えて事業承継がうまくいった事例や小会社設立の依頼もある。
		税理士（所長）	取引先の様子	・飲食業を除きB to C向けの業種は、物価高による買い控えが続いており、依然として厳しい状況である。B to B向けの業種は、増収傾向の会社が多いが、受注状況については不透明感がある。
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災し多くを失って以降、復旧は進んでいるが、復興とは言い難い。企業の機能はおおむね回復しているものの、ほとんどのカテゴリーで、受注数は震災前にはるか及ばない状況が続いている。
		繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・米国政権の関税引上げによる影響は具体的に発生していないものの、様子見により、発注を抑制する取引先も出ている。
		建設業（役員）	取引先の様子	・米国政権に対する先行きの不透明感から、今後の設備投資については一旦見直し等があり、落ち込む可能性があるともみている。
		×	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・派遣先企業からの派遣依頼数自体は高止まりで、変化はない。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・広告営業をしていると、業種にもよるが広告費を削減している企業が散見される。逆に広告費を増やしている企業は少ない。決算自体は悪くないため、良くなっているとも悪くなっているとも判断が付きづらい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は高止まりが続いている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などの影響で求人数は減少傾向にあるが、3月末で退職し新規登録する求職者数が増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人手不足感が継続しており、不人気の業界、特に中小企業は常に募集しているものの、人が集まらない状況である。求職者は高齢者が多く、求人企業とのマッチングが難しい。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が減少している。また、米国の関税による影響で、特に製造業からは、受注が減少しているという声や、今後の受注の予測が立たないという声が出ている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が減少傾向にある。人手不足ではあるが、慎重に採用したいとする企業が増えている。
	x	-	-	-

8. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所株式会社)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (近畿)		コンビニ(店員)	来客数の動き	・インバウンドの増加で安定した来客数が続いているが、最近では例年以上に来客数が増え、1人当たりの購買単価も上がっている。外食をコンビニの商品で済ませる場合もあるなど、最近ではメニューが豊富になっており、温かくておいしい物が食べられるのは便利である。
		都市型ホテル(総務担当)	来客数の動き	・大阪・関西万博への来場者とみられる客が増えている。
		都市型ホテル(フロント)	単価の動き	・大阪・関西万博がスタートし、団体客、個人客共に好調な動きである。高稼働、高単価での推移となっている。
		都市型ホテル(客室担当)	来客数の動き	・大阪・関西万博が開催され、ホテル不足が報道されているとおり、当ホテルでも平日、週末にかかわらず高稼働、高単価で推移している。その一方、レストラン部門はやや低迷しており、物価の上昇や、現在の不安定な社会情勢の影響を実感している。
		一般小売店[鮮魚](営業担当)	来客数の動き	・インバウンドの増加による影響が出ている。
		一般小売店[手ぬぐい](経営者)	来客数の動き	・インバウンドによる売上への貢献度が高い。
		一般小売店[菓子](営業担当)	販売量の動き	・4月に入り、贈答品の動きがやや良くなる傾向にある。この動きが5月も続くことを期待している。
		スーパー(企画担当)	それ以外	・米の価格の上昇に対し、他社よりも買いやすい価格で販売を行った。利益は減ることになるが、販売点数が飛躍的に増え、店舗の売上、利益は共に伸びるなど、全体の底上げにもつながっている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・欧米からの団体客が増加している。東南アジアからの観光客も増えているため、来客数が前年比で約8%、売上は約5%の増加となっている。
		コンビニ(経営者)	それ以外	・大阪・関西万博の影響が出ている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・インバウンドが増加している。
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・桜の時期になった頃から、外国人客がかなり増えている。
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・大阪・関西万博が始まって訪日外国人が増えたほか、昼間が暑くなる日が増えて、冷たい物が売れ始めている。
		衣料品専門店(店員)	お客様の様子	・気温の高い日は、販売状況が良くなっている。
		家電量販店(経営者)	販売量の動き	・給湯や水回り関連の補助金が正式にスタートし、リフォームの問合せが増えている。
		家電量販店(人事担当)	販売量の動き	・春になり、朝と昼の寒暖差が大きな日が続いたこともあり、エアコンを中心に季節家電が好調となっている。また、OSのサポート終了が近づいたため、パソコンの販売も好調に推移している。
		乗用車販売店(支店長)	お客様の様子	・米国大統領の発言で国内市場が揺さぶられている。今後も日米関係の変化により、株式市場も影響を受けると予想される。
		その他専門店[ドラッグストア](店員)	単価の動き	・花粉の飛散量が多いほか、4月にしては夏日の日もあったため、季節商材の売上が伸びている。特に客単価が上昇しており、値上げに関係なく購入する客が多くみられる。
		高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・春の節目での祝賀会に伴う予約や、インバウンドの来店率も高い。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・直営店のカフェの来客数が増加しており、特に欧米からの観光客が顕著に増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月になって暖かい日が続き、桜も咲いていたため、ランチ営業での来客数が比較的增加した。一方、夜の営業は新学期が始まると来客数が減少し、近隣の商店街の人通りも減っている。
		都市型ホテル（管理担当）	単価の動き	・春のシーズンを迎えて、3か月前よりも単価が大幅にアップしており、稼働率も好調である。
		都市型ホテル（客室担当）	販売量の動き	・高稼働を維持しており、販売単価も高水準となっている。
		都市型ホテル（客室担当）	単価の動き	・桜のシーズンで高単価での販売が続いている。海外サイトからの予約が好調に推移し、1室当たりの利用客数の増加に伴い、客室単価も上昇している。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・大阪・関西万博が始まり、盛り上がりの気運も高まってきたため、客の購買マインドも上昇している。物価の上昇は続いているが、地元の小売店などで万博関連商品が発売されていることも、好影響となっている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・前年と比べて今年度は解約などが減少し、顧客数の増加傾向が顕著となっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・引っ越しのシーズンを迎えたため、客の需要が増え、契約数が増加している。
		通信会社（企画担当）	単価の動き	・世界情勢の変化で株価や原油相場が下がり、金などの相場が上昇している。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	販売量の動き	・運営する住宅展示場全体の成約数は、3か月前と比べて若干の増加傾向にある。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	単価の動き	・春の賃金のベースアップが1万円超と例年以上であった。いわゆる就職氷河期世代にとっては、異例の昇給である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・今月は催事があって来客数は増えたものの、月全体で販売量が増えたわけではなく、停滞感がある。
		一般小売店〔化粧品〕（経営者）	来客数の動き	・4月に入り、上旬は気温がほぼ平年並みに戻ったことで、ファッション商材の売上回復とともに、化粧品も春カラーの商材を中心に回復に向かっている。関西の都心店舗の売上は前年比で100%から103%の推移となり、来客数は前年並みであるが、客単価が少し上昇する形となっている。ただし、商品の単価は原料価格の高騰で上昇しているものの、客の購買は慎重である。単価の低い商材を組み合わせて買う動きが多く、客単価は上がっているが、買上の商品単価は下がっている。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	販売量の動き	・呉服を販売しているが、客が新しい物を求めず、古い着物を直して着る傾向が強い。
		一般小売店〔書籍〕（管理担当）	販売量の動き	・大阪・関西万博に関係する商品は売れているが、それ以外の商品の動きは芳しくなく、全体としては何とか持ちこたえている状況である。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・大阪・関西万博の開催で、来客数が若干少なくなっており、前年の実績を下回っている。その一方、万博のオフィシャルストアの売上拡大や各種のイベント催事の好調が、売上の増加に貢献している。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・景況感が上向き要素は見当たらず、大阪・関西万博の開催による影響もみられない。一方、米国の政策により、消費者を取り巻く環境の変化が今後も予想されるなど、先行きは非常に不透明である。
		百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・苦戦していた衣料品も、客の動員キャンペーンといった施策の効果もあり、徐々に回復している。食料品も、一時高騰していた野菜価格などが落ち着いており、前年並みの売上を確保できている。
		百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・3月は気温の低下で衣料品が厳しい状況となった後、今月に入り、婦人服を中心に売上は3%から5%戻したが、前年比では10%程度の減少となっている。一方、外商売上はラグジュアリー、金製品を中心に好調であるほか、インバウンド売上も大阪・関西万博の影響もあり、前年比で10%程度伸びている。
		百貨店（売場統括）	お客様の様子	・インバウンド売上が前年比で30%減となったほか、国内客も来客数は前年並みであるが、買上数が10%減という状況である。物価の上昇や、先行き不安による株価の下落などで生活防衛意識が強まり、消費マインドが減退している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（管理担当）	来客数の動き	・催事やイベントが好調で、売上をけん引している。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・インバウンド売上の減速がみられる。来客数は増加しているが、単価が低下した結果、売上全体は減少している。一方、国内客の売上は堅調に推移しており、インバウンドの売上減少を何とかカバーしている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・米や野菜のほか、それ以外の食品価格の高騰により、消費者の財布のひもが固くなっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価は上がっているが、買上点数は伸びていない。客単価の上昇は1品単価が高いことが原因であり、景気の改善によるものではない。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・野菜の価格もかなり下がったとはいえ、安いのはチラシへの掲載時ぐらいである。また、果物の価格も高いままであるため、客の様子もまだ厳しい。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は安定しており、売上にも大きな変化はない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは大型連休とはなりにくく、近場のレジャーで済ませるケースが多い。日常的に来店するスーパーにとっては、プラスの状況となる。
		スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・売上は横ばいで推移しており、来客数も大きくは伸びていないが、商品単価の上昇によって前年の売上を上回る状況が続いている。首都圏と関西を比較すると、関西での落ち込みを首都圏の増加でカバーしている。
		スーパー（企画）	販売量の動き	・売上は相変わらず、目標比が103%、前年比が106%と順調である。ただし、客単価が103%、1品単価が106%である一方、買上点数は98%を切っている。米や卵の価格の上昇などで売上は伸びているが、中身を見ると芳しくない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・周辺ホテルの客室稼働率が非常に高く、ここ数か月は来客数が高水準で推移していたのに加え、大阪・関西万博の影響もあり、インバウンドを中心に来客数が更に増加している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・外国人観光客が増えているなど、大阪・関西万博の影響がみられる。ここ数か月は、売上、販売量がややプラスで推移している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数はやや微減である一方、単価はやや微増であり、全体としてはほぼ横ばいとなっている。4月は新年度での企業の異動などで、リピート客が減少しているものの、インバウンドの増加が売上増に少なからず寄与している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・物価の上昇が世間で騒がれるなか、必要最低限の金額での購入が多くなっている。必要以上の高額商品の動きは芳しくない状況である。景気が回復するためには、何らかの補助金制度の導入や消費税率の見直しが必要とみられる。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・来客数や問合せが減っており、販売量も減少している。
		乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・買い控えの雰囲気がある。
		その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・商品価格の上昇に伴い、販売数量が落ちている。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（経理担当）	販売量の動き	・ガソリンの販売量は前年比で微増となっている。米国の政策で世界経済の先行きが不透明なため、原油相場は下落している。円高の進行や、政府の物価高対策による補助金継続もあり、国内のガソリン価格は低下傾向にあるが、ガソリンの販売量に大きな変動はみられない。
		その他専門店【医薬品】（管理担当）	販売量の動き	・鼻炎薬や目薬などの医薬品を中心に、花粉症関連の商材は好調であった。食品や日用雑貨といった生活必需品も好調に推移している。一方、化粧品や化粧品雑貨の販売は若干減少しており、気温の上昇に伴ってUVなどの夏物商材にシフトすると予想される。全体としては、3か月前と比べて来客数、客単価は少し上向いたが、買上点数は若干の減少となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (総 括)	販売量の動き	・米国の関税引上げなどで、常連客の財布のひもが固 い。情勢の安定が見込めないため、しばらくはこの動 きが続くそうである。
		その他飲食[自 動販売機(飲 料)] (管理担 当)	単価の動き	・価格は高いが、客は仕方ないと諦めている。
		その他飲食[洋 菓子] (管理担 当)	来客数の動き	・来客数の前年比は105%と3月よりも伸びている が、1月、2月からは変化がない。
		観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・4月の個人客の動きは3月ほどではないが、好調が 続いている。当初は大阪・関西万博関連の動きが弱 かったが、ここへきて万博関連の団体客も増えている。
		都市型ホテル (販売促進担 当)	来客数の動き	・客室部門では、3か月先までは順調に予約が入って おり、円高リスクはあるものの、インバウンドの予約 が増えている。一方、国内客に目立った動きはない。 レストランでは4月から料金が大幅なアップとなり、 ランチの最低料金は2000円から2400円に上がったが、 懸念したほど来客数は減らず、逆に売上はアップして いる。ただし、料金を変更したばかりであり、しばら くは様子を見る必要がある。
		旅行代理店(役 員)	販売量の動き	・2月、3月と比べて、国内旅行、海外旅行の予約件 数、販売額共に、ほぼ横ばいとなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・配車アプリなどの利用で、朝の時間帯は動きがみら れるが、午後は極端に悪い。大阪・関西万博は始ま ったばかりで、ゴールデンウィーク前ということもあ って、まだ動きはみられない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・大阪・関西万博関連の需要が多くなっている。
		通信会社(経営 者)	お客様の様子	・仕入価格の上昇により、利益が圧迫されている。
		通信会社(社 員)	販売量の動き	・既契約者の他社への転出が収まらないため、転入の 増加を狙う動きが続いている。ただし、費用の持ち出 しが増える一方、総販売数は伸びていない。
		通信会社(役 員)	販売量の動き	・売上や販売量は前年並みで推移している。
		テーマパーク (職員)	お客様の様子	・結局はガソリン減税も時期が未定となるなど、現状 は期待できる材料がない。
		観光名所(企画 担当)	来客数の動き	・ここ3か月の来場者数に、大きな変化はみられな い。
		その他レジャー 施設[飲食・物 販系滞在型施 設] (企画担 当)	来客数の動き	・季節要因や天候要因を除けば、インバウンド、国内 客共に来店状況は変わっていない。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・購買意欲が余り高まっていない。
		その他住宅[情 報誌] (編集 者)	お客様の様子	・新築分譲マンションは、供給戸数の減少や価格の高 騰で一部の富裕層向けとなっており、1つの物件が市 場に及ぼす影響が大きくなっている。一時的な株価の 下落などの影響はあるものの、引き続き市況が大きく 崩れる様子はみられない。
		商店街(代表 者)	販売量の動き	・商店街の人出は多いが、売上は余り良くない。
		一般小売店[時 計] (経営者)	来客数の動き	・月初から来客数が少ない。4月上旬は他の施設での イベントも多いため、客の動きが減りやすいが、今年 は余りにもガソリン価格などが上がり過ぎており、買 うのが怖いという声もある。また、直接的な影響は分 からないが、連日の米国の関税引上げに関する報道 で、何か良くないことが起きるイメージが強まって いる。全体的な雰囲気が良くない月となっている。
		一般小売店[野 菜] (店長)	お客様の様子	・物価の上昇に賃金が追い付いておらず、特に年金暮 らしの高齢者層は、安い商品を探し回って購入してい る。特に、主食である米の価格の高騰が響いている。
		百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・来客数が前年割れであるため、客単価が少し上がつ ても、売上が前年の水準に届かない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・4月に入ってから値上げや、株価の大幅な低下の影響か、衣料品の販売が苦戦している。特に、紳士用品にその傾向が出ており、来客数も前年を下回る日が多い。中旬には販売促進イベントを実施したが、その際は売上、来客数が伸びるものの、イベントが終われば元の状態に戻る。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・株価の下落に伴い、富裕層を中心とした国内客の購買の勢いが鈍化している。また、免税売上も引き続き、前年の好調の反動で苦戦している。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・インバウンド売上が鈍化傾向にあるほか、国内消費も横ばいのみとなっている。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・米国の関税引上げによる株価や為替の急変動で、富裕層からは資産管理の先行き不安の声が出ており、高額商談への悪影響が危惧される。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・米価格の上昇や、米国の輸入関税引上げによる影響への懸念から、株価が大きく下落している。景気の先行き不安も影響してか、節約志向が強まっており、服飾品関連の売上が非常に厳しい。一方、食品関連では売場の改装効果もあり、売上は順調に推移している。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・前月に続いてインバウンド売上が前年を下回っている。来客数自体は減っていないが、主な購入品目が海外のブランド品から化粧品などにシフトしており、購入額が減少している。
		百貨店（販促担当）	それ以外	・気温が今月中旬から後半にかけて一気に上昇したことで、ファッション関連の動きが活発化している。一方、物価上昇の影響で食品の動きは引き続きシビアとなり、特に和洋菓子などの嗜好品で苦戦が続いている。また、前月からインバウンドの動きが明らかに低調となり、大阪・関西万博の開幕による恩恵もなく、期待を裏切られている。
		百貨店（宣伝担当）	単価の動き	・大阪・関西万博が開幕してインバウンドが増え、来客数や免税件数は増えているものの、客単価が落ちている。これまでは国別の免税シェアでは中国が7割を占め、ラグジュアリーブランドの販売が伸びていたが、万博の開幕後は5割に落ち込んでいる。欧米や中東からの観光客が増えたことで、ラグジュアリーブランドの販売が落ち込み、土産品の要素が強い食料品や雑貨の販売が増えたことで、単価が落ちている。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・外的要因もあるが、好調が続いていたインバウンド需要の内容が、前月から完全に変わっている。国際線の就航開始の影響もあり、来客数は前年比で45%増えたが、購入は消耗品が中心であり、客単価は40%低下した。大阪・関西万博の開催効果を期待したが、今のところはみられない。国内消費も不安定な外的要因の影響か、一部の富裕層の動きは特選ブランドを中心に堅調であるが、中間層は生活防衛意識が強く、節約志向が続いているため、全体的にはやや悪い状況である。
		百貨店（商品担当）	単価の動き	・円高の影響もあり、今月はインバウンド売上が半減となっている。買上点数は1けた減にとどまるなど、大阪・関西万博関連は好調であるが、ラグジュアリーブランドの販売減が減収要因である。前年比で見ると、今後インバウンド売上に増加の余地はなく、厳しい売上が予想される。
		百貨店（特選品担当）	単価の動き	・インバウンドによる買物の内容が変わっている。大阪・関西万博で来日した客は、長期滞在でも観光が中心で全国を周遊するため、ラグジュアリー商品を購入する客は少ない。その一方、化粧品の動きは好調である。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品価格などの値上げが続き、買い控えや選択消費の傾向がみられる。
		スーパー（社員）	お客様の様子	・前年までは、商品単価の上昇が売上の増加につながる店が多かったが、物価の上昇が続くなか、年配客を中心に節約志向が高まっている。
		スーパー（企画）	来客数の動き	・インフレの影響を受けて、客単価の上昇が続く一方、来客数は天候不順の影響もあるが、弱含みとなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (経営者)	競争相手の様子	・商売に動きがみられない。
		乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・米国の関税引上げに振り回される形で、客も今後の景気を見極めようという意識からか、自動車などの高額商品の引き合いが減っている。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・今月は中古車の販売や修理等のサービスは目標を達成できるが、新車の販売は在庫が確保できず、厳しい状況である。車両の単価が上がり、新車の新たなラインアップもないほか、不安定な経済情勢もあいまって、富裕層といえども購買意欲の低下がみられ、販売台数の減少につながっている。
		乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・これまでの受注残の影響で、販売台数は前年を上回っているが、正味の受注台数は前年を大きく下回っている。
		その他専門店 [宝石](経営者)	お客様の様子	・米を始め、野菜などの食料品価格が高騰している。
		その他小売[インターネット通販] (オペレーター)	販売量の動き	・送料の無料キャンペーンを行っているため、受注量は増えたが、少しずつ増勢が鈍化傾向となっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・4月からの喫煙制限に加え、必要不可欠な食材の不足や価格の高騰が続くなど、厳しい状況が続いている。特に、店内での喫煙には新たな設備投資が必要な一方、利益の乏しい状況が続いているため、店内を禁煙にせざるを得ない。結果として、売上、来客数共に2割減となるなど、更に厳しい状況となっている。
		一般レストラン (企画)	販売量の動き	・売上は何とか前年の実績を上回っているが、直近の6か月では最も低い水準である。特に来客数の減少が顕著であり、リピートによる来店回数が減少傾向にある。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・前月は良かったものの、今月と来月の予約状況は悪い。大阪・関西万博が始まったため、会場に近い地域のホテルは良いが、当地区への流入はみられない。
		旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・今年は大阪・関西万博への来場を予定する客が多く、旅行需要が落ちている。ただし、この傾向は近隣市民が中心である。
		競輪場(職員)	単価の動き	・3か月前の客単価は8850円で、今月は8386円となった。ほぼ変わらないが、微減となっている。
		その他レジャー [スポーツ施設](業務担当)	単価の動き	・経費や原価の高騰で、利益が圧迫されている。
		美容室(店員)	お客様の様子	・来店周期が伸びているほか、トリートメントをやめることで単価の下落傾向がみられる。
		その他サービス [学習塾](スタッフ)	お客様の様子	・受講する教科数を絞る傾向があり、3教科を受講する子供の人数が減っている。
		住宅販売会社 (総務担当)	単価の動き	・米国の関税引上げに伴い、資材価格の動きが不透明になっている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介](経営者)	それ以外	・外的要因や物価上昇の影響で、やや悪くなっている。
	×	百貨店(売場主任)	単価の動き	・生鮮品や総菜の売場では、29日までの売上が前年比で4.6%減となった。近隣に競合店が新規出店した影響が大きいほか、米を含む生活必需品の価格が4月に大きく値上がりしたことで買い控えが深刻化し、売上が前年を大きく下回っている。来客数が前年並みであっても、売上がなかなか伸びないなど、今月は明らかに買い控えの傾向がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・大阪・関西万博の開催効果もあり、来客数は前年比で2けた増となっているが、売上は前年を下回る見込みである。インバウンド消費は円高の影響や、前年の特選プティックの値上げによる売上増の反動減もあり、前月に続いて高額品を中心に前年割れとなった。国内売上も不安定な株価による影響が、高額品の動きが悪くなっている。一方、化粧品や雑貨といった比較的単価の低い商品は、堅調な売上となっている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比で2～3割減っているため、売上も減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・消費者が価格に敏感になっており、欲しい商品でも価格の条件が合わない場合は、すぐには買おうとしない。
	×	家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数が減っているほか、物価の先行き不透明感や米国の関税引上げの影響で、以前は契約まで進めたパターンでも、すぐには購入が決まらないケースがみられる。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・リフォーム商品については、最近はネット販売の情報が増え、商談の内容も価格重視の傾向が強まっている。
	×	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・家電やリフォームなどの需要が盛り上がらないなか、空前のインバウンドブームで外食や旅行のほか、大阪・関西万博の開催に伴う需要が中心となっており、集客に苦労している。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・客単価が毎月徐々に下がっているほか、今年に入ってから、業界での催事の開催も減っている。
	×	その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	販売量の動き	・米国の関税引上げの影響により、材料である地金相場が一時下がったものの、再び上がり始めたため、前月と同様か、それよりも悪い状態である。
	×	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・食材などの物価上昇が影響し、利益が圧迫されている。同じ動きが家庭でも起きており、財布のひもが更に固くなっている。
	×	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・仕入価格の高騰が続いているが、価格転嫁が全く追いついていない。価格が上がるなかで、利益は減る一方である。
企業 動向 関連 (近畿)		電気機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・部品や消耗材などの価格が高騰するなか、製品の販売価格も値上げ交渉に応じてもらえるケースが増え、相応の価格転嫁が可能となっている。その影響もあり、売上は増加傾向にある。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家庭用の商品は、野菜の価格も戻りつつあるため、少し動きが出てきた。一方、業務用の商品は今のところ安定している。
		食料品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・大阪・関西万博が始まったことで、需要が増えている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大阪・関西万博の開催に伴い、スーパーなどに立ち寄る外国人観光客が増え、立ち寄った店での飲料の購入が増えているため、売上はやや良くなっている。万博関連の商品などを多く販売している影響も出ている。
		化学工業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・米国の輸入関税引上げへの懸念から、製造量が増えており、前年度の製造量をこの3か月でクリアする予定となっている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・オートバイや乗用車の電装部品向けを中心に、出荷量が好調となっている。米国の輸入関税引上げに対応し、駆け込み需要が生まれる可能性もある。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は取扱商品の需要期に当たり、受注量が増えている。景気としては悪くないが、例年と比べると勢いは弱い。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月に入り、少し引き合いが増えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年4月は期初で広告を控える動きもあり、低調な受注の年が多いが、今年は前年と比べても交通広告全般で出稿が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の反応をみると、大阪・関西万博に勝機を見いだそうとする動きが活発である。都心部などに店舗がある小売店は、外国人観光客の売上構成比が国内観光客を上回っている。当県のものづくり企業も製品のアピールに余念がなく、投資マインドが高まっているという点でも景気は良くなっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月末になると、受注量が急激に減少する。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量に変化はないが、材料価格の値上げの話も出ているため、販売価格への転嫁が今後のポイントとなりそうである。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きな変化はなく、米国の関税引上げ問題が落ち着くまでは、先の見通しが立たない。
		輸送用機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・米国の輸入関税引上げについて、企業の間で様子見の動きが出ており、一時中断する案件も発生している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・監理技術者や技能労務者の不足が深刻である。他の業界と同様に、少子化によって建設業の従事者が減る傾向は続くと予想されるため、人件費の高騰は避けられない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・仕事の依頼件数は少なめであるが、新入社員が入社したことで、これまで受けられなかった配達の仕事を受注できるようになった。ただし、今月から一部で運賃が値下げとなった一方、各種の経費は値上げとなったため、収益はほぼ変わらない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・家電の売上が良いため、配達件数が増えている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先との会話では、建設業では大阪・関西万博関連で人手が取られ、仕事が回ってこないとの意見が多い。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・大阪・関西万博の開催効果もあって、ターミナル駅に限れば明らかに人流が増えており、万博関連の雑貨が予想以上に売れている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品の値上げがまだ続いており、値上げの了承を得るための交渉に時間を取られている。その結果、売上を増やすための営業ができていない。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・催事での集客や販売が増えていない。また、販売を増やすための値下げで単価が下がる一方、経費率は上昇するという傾向も改善されていない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・従来の製品には、受注のない物や注文の動きが遅い物もある。多種多様な業界との取引から判断すると、全体的に流れが悪い。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず物価の上昇が続いており、ぜいたく品ではなく、米やガソリンといった生活必需品の価格が高騰している。前年以上の賃上げは実施されているが、実質賃金が上がるまでには至っていないほか、米国の関税引上げといった不安要素も存在する。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月で急速に引き合いが減っている。特に、設備投資関連の案件の動きが悪くなっている。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注量や販売量の動き	・末端の小売市場で商品が売れないなど、消費者の買い控え傾向が更に強くなっている。
		金融業（営業担当）	それ以外	・物価の上昇で消費者の生活が圧迫されている。その要因としては、燃料費の値上がり大きい。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・ECサイトでの販売が多くなり、実店舗での営業が厳しくなっている。貸店舗のニーズが減ることで、賃料や空室率が悪化するなど、景気が悪くなっている。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・日用品でも、円安を反映して今年の春夏商材から小売価格が上がり、販売量は減少していたが、売上は横ばいか、少し増加傾向であった。ただし、米国の輸入関税引上げなどで不透明感が強まっていることから、消費マインドは防衛的に悪化しており、4月に入ると小売店での販売数の伸びにブレーキが掛かり始めている。4月の売上は量販店、百貨店共に悪い。
	×	繊維工業（総務担当）	競争相手の様子	・同業他社との会合では、物価の上昇による消費意欲の減退が顕著という意見が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・物価の上昇が続き、ガソリン価格も高止まりしている。国民への給付金も一時検討されたが、消費マインドの悪化以前に閉塞感が強く、景気が良くなるとは考えられない。
	x	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・物価の上昇が止まらない。
雇用関連 (近畿)		*	*	*
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・全体的に良くはないが、求人数は増えている。
		人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・4月以降も求人数は高止まりしており、求職者も引き続き活発に動いている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新卒採用では売手市場が続くなか、企業からの求人は前年よりも増えている。特に新卒求人の申込みが好調で、紹介できる求職者が足りない状況である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・採用者数が増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・事務関係の派遣社員を募集する企業は、大手企業の関連会社や建設業界が中心であり、DX商材などによる業務の効率化が進んでいる。
		人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・大阪・関西万博が始まり、関連求人の動きは一段落したが、他の観光関連の求人は引き続き増加している。ただし、条件に合う求職者の応募がなく、採用には至っていない。
		求人情報誌制作会社（営業担当）	求人数の動き	・2026年卒の新卒採用が本格的にスタートし、求人数は前年比で増加傾向にある。2027年卒以降のインターンシップなどの募集企業数も増加傾向にあるが、短期的な景気動向に大きな変化はみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・関西企業による新聞広告やデジタル広告への出稿意欲は、前年とほぼ変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の求人数は1月、2月と比べると少ないが、3月の水準は上回っている。前年の水準も月末を待たずに上回っており、企業の採用活動には活発さがうかがえる。一方、新規求職者数は4月に入って増えているが、水準は前年並みである。特に、求職者の数が増えても応募数は増えないなど、求職活動に慎重さがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・大阪・関西万博関連の求人を除くと、3か月前と求人数の動きは変わらず、ほぼ横ばいで推移している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・求人、求職者共に横ばいとなっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・人手不足が続いており、求人数、求人施設数共に堅調な推移となっている。内定者の国家試験の合否による影響は受けるが、前年度の就職希望者全員が内定を得るめどが立っている。
		学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子	・特に目立つ動きはみられない。
		その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新規求人数について、前年比では下げ止まりがみられるほか、インバウンド需要も好調な動きが続いている。ただし、原材料価格などの高騰で、事業運営は引き続き厳しい状況にある。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・現実の経済状況としては、景気が停滞している一方、物価の上昇が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・米国の関税引上げによって世界的な混乱が発生し、景気が悪くなっている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・物価の上昇や米国の関税引上げにより、個人資産は増えず、家計への負荷も大きくなっている。なお、失業者数は例年4月に増える傾向となるため、離職者の変化からは景気の動きは実感しにくい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・4月の宿泊の予約ペースは2か月前から急に良くなり始め、前年を10%上回っている。レストランは今年の1月から好調が続いており、4月も前年より5%以上プラスに転じている。
		都市型ホテル (宿泊担当)	単価の動き	・今月はインバウンド需要の好調に加え、国内レジャーも高単価で販売できている状態である。単価が上がったことで稼働に鈍化はみられるものの、売上は前年を上回る水準となっている。
		競艇場(企画営業担当)	販売量の動き	・4月上旬にグレードの高いレースが開催されたため、売上を確保できた。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・行政が行ったプレミアムポイント還元事業の影響で、まとめ買いやついで買いがあり、客単価が上がった。
		一般小売店 [茶](経営者)	販売量の動き	・特に今年に入って、インバウンドを中心とした抹茶ブームで売上が上がってきた。当社は地方を中心に営業をしており、インバウンドとは無縁と考えられてきたが、今年から良い影響が出てきた。
		スーパー(業務開発担当)	販売量の動き	・商品の動きが活発な季節になってきたので、販売点数が伸びてきている。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・来客数と販売数が伸びている。
		コンビニ(副地域ブロック長)	来客数の動き	・朝夕の来客数が増加している。事業所や工場に出入りする人が増えており、主食中心に購入が増加している。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・例年は、料金が決まっている食べ放題や飲み放題の職場関係の利用が多いが、今年は物価上昇による客の節約志向もあり、一般客やファミリー客の増加が目立ち、平日の売上を押し上げている。また、支払金額の上限を定める客が増加している。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・毎年1～2月はオフシーズンで動きが弱い時期であるが、それと比較すると持ち直している。一方で前年同期と比較すると国内外共に団体の動きが弱い。
		テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・大型連休の予約状況が好調である。
		ゴルフ場(営業担当)	来客数の動き	・来場者数が今月に入ってから例年よりも伸びている。インバウンドは例年並みのため、国内、県内利用者が増えている。暖かくなり好天にも恵まれている。
		商店街(理事)	お客様の様子	・客が物価の上昇や天候不順に敏感になっている。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・多少動きが出ているが、まだその動きは弱い。
		一般小売店[印章] (経営者)	販売量の動き	・年度替わりの需要が一息ついた気配がある。
		一般小売店[洋裁附属品] (経営者)	来客数の動き	・売出しが始まるゴールデンウィーク前は客が外出を控える。
		百貨店(広報担当)	来客数の動き	・来客数はほぼ前年並みで推移しており、売上は商品群によって多少の増減がみられるものの、全体ではおおむね変わらない。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・客に特定ブランドの特定商品しか購入しないという傾向がある。
		百貨店(総務・経理担当)	販売量の動き	・インバウンドの動きに鈍化が目立つ。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・食品中心の値上げの継続は家計に大きく影響しており、現在では主食である米の値上がりに加え、米自体の不足が問題である。その他の値上げ商品も多く、単価上昇で売上は上がるものの、販売点数は落ち込んでいる状況である。今後も値上げは続くとみられる。客との会話からも食費に対する支出は抑える傾向であることがうかがえ、収入面でのプラスもみられない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・4月からの値上げ報道により、3月末に駆け込み需要が発生した。値上げによる1品単価上昇はあるが、販売点数は前年を割っている状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月に入り食品や酒などが更に値上がり、客の財布のひもは固く、買上点数が前年比98%となっている。客からも食品の値段が上がったという声、特に米が高いという声が多い。
		スーパー（営業システム担当）	お客様の様子	・特売日に客が集中する傾向は続いており、気になる商品を見つけても、価格を見て棚に戻す様子をよくみる。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・大型連休もあり、例年母の日需要が見込める時期だが、来客数は今のところ前年を下回っている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・米の仕入れは安定しているが、価格は上向きで全体を押し上げている。来客数と買上点数は横ばいで、値上げによる買い控えはみられない。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・単価上昇により売上が上がっているが、来客数が伸び悩んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・商品の仕入価格が短期間で上昇し、厳しい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇率に賃上げ率が見合っていない。
		衣料品専門店（代表）	販売量の動き	・ガソリンや食料品の値上がりに加えて、増税が家計を直撃しており、衣料品は二の次になっている感がある。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・来客数が減少し、客単価も下がっているため、販売強化に努めているものの、苦戦の連続である。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回り、売上も減少している。暑くなっているため、比較的季節商材が動いているが、売上を落としている他の商品をカバーできていない。
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・販売量が冷蔵庫は前年の110%、洗濯機は90%、エアコンは110%、テレビは80%と、平均すると前年並みとなっている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・価格の安い商品に問合せが増えた分、来客数が伸びている。
		乗用車販売店（業務担当）	お客様の様子	・物価上昇により車両購入は後回しになっているため、販売台数に変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・例年、新年度が始まると市場の動向、客の動きは低迷してしまう。4月も同じ状況にあり、苦戦を強いられている。ゴールデンウィーク明けからは回復してくるとみている。
		その他専門店【土産物】（経営者）	お客様の様子	・大阪・関西万博に行っているのか、観光バスがめっきり少なくなっている。米、野菜、土産品など全て値上げのためか、客は買い控えの様子である。
		その他小売【ショッピングセンター】（支配人）	来客数の動き	・来客数と売上が伸びている。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは国内旅行が前年比微減、海外旅行は前年並みで、急激な回復は期待できない。大阪・関西万博開催で宿泊旅行より日帰り旅行が増加したとみている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・4月に入り、会社関係、学校関係の利用を期待していたが、利用客は少なかった。
		タクシー会社（営業所長）	お客様の様子	・外国人の動きは顕著であるが、一般乗客については動きが鈍い。特に夜間の需要が前年より低下している。駅ロタリーも車両が余る状態が多い。
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・ここ数か月は、ケーブルテレビ利用料の延滞率、回収率とも横ばいが続いている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・値上げが続いている状況下、特に費用メリットが生じるキャンペーンやインセンティブ付帯でない、客の関心を引けない状況になっている。
		通信会社（企画・総務担当）	販売量の動き	・価格の安価な競合他社へ客が流れる傾向は続いているが、高付加価値のある10ギガへの契約増加傾向も続いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・物価上昇で客が節約志向にあり、美容院の費用も節約している。
		設計事務所	お客様の様子	・米国の関税で製造業の将来計画にブレーキが掛かるようにみえたが、今のところ計画どおりに進んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍の時期に見合わせていた、住宅、店舗、オフィスなどのプロジェクトが動き出した。
		商店街（代表者）	単価の動き	・客が商品の購入を迷い、最終的に購入を先送りしている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	競争相手の様子	・最近、同業者がチラシの低価格商品をアピールし始めた。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・食料品の価格高騰を背景に、来客数と売上上の減少が続いている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・100万円を超えるブランドバッグや数十万円の工芸品などが売れたが、前年実績を大幅に下回っている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・他業種の人に話を聞くと、食料品は売上好調のことであるが、百貨店は非常に厳しい。やはり割安感では他業種に勝てないため、値上げの影響は大きい。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・富裕層の来店頻度が低くなり、購入も減っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は前年並みを維持しているが、値上げもあり、販売点数が若干減少している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・高価格帯のスーパーの来客数が鈍化している。ディスカウントストアである当店の来客数は問題なく推移しているが、1人当たりの買上点数が伸び悩んでいる。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・節約により、1人当たりの買上点数が前年割れのなか、値上げにより客単価は前年を上回っているものの、野菜の出荷量の増加及び備蓄米の放出によりそれらの単価がやや下がっているため、下落傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・米国の関税など不安要素が多い。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・車両本体価格、オプション、タイヤといった部品など、全般的に価格が上がっており、買換えではなく車検を受ける、あるいは他社の安い車検を受ける客が増えている。決算商戦も終わり、全体的に販売台数は落ちている。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月の販売量は前年比75%と大変厳しい状況である。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・物価高により生活必需品でない物は買い控えるか、安い物で我慢するかになっている。商品価格の上昇で売上は変わらないが、作業件数が減っている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	お客様の様子	・政府の物価高対策の効果がなく、物価上昇が止まらないため、景気がやや悪くなっている。
		高級レストラン（事業戦略担当）	来客数の動き	・ターミナル駅の新施設ができてから来客数が激減している。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・米国の関税引上げもあり、景気は混迷している。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・駅ビルの開業も影響しているのか、来客数の減少が大きく、前年比では10%近く落ち込んでいる。常連客の来店頻度が下がっており、月2回来ていた客が1回になっている。物価高騰に伴う買い控えもあるのかもかもしれない。
		観光型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは休日の並びが良くないことと、4月からの値上げも影響しているのか、ゴールデンウィーク中の平日の宿泊予約の入りが悪い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・歓送迎会や花見で街中にはにぎわう時期であるが、前年と比べてそのような会が少なかった様子であり、売上も減少している。
		通信会社（工事担当）	それ以外	・米やガソリンの価格高騰による影響がある。
		通信会社（総務担当）	それ以外	・最近では米やガソリンの価格が高止まり傾向にあり、米国の関税措置への対応も不透明である。また、当県の大学では定員割れによる経営権の譲渡や短期大学の募集停止等、少子高齢化の影響が出ている。
		通信会社（広報担当）	お客様の様子	・物価上昇を製品に転嫁すると、途端に客は購入しなくなる。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・続く物価高騰で家計の節約が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・米を始めとする物価高騰や米国の関税問題を受けて、客の生活防衛意識が高まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（住宅設計担当）	来客数の動き	・例年、来客数は4月に落ちる傾向があるものの、それを踏まえても状況はやや悪くなっている。
		住宅販売会社（事業推進担当）	お客様の様子	・4月に入り、例年と比較して集客がかなり落ち込んでいる。米国の関税の影響が大きいとみられる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高で消費が落ち込むなか、米国の関税引上げもあり、消費はますます冷え込んでいる。
	×	乗用車販売店（リース担当）	単価の動き	・食費などが増えても賃金は上がらないため、不要なメンテナンスを省こうとする客が多い。
	×	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・メーカー各社の仕入価格の値上げで販売価格も値上げしたためか、春需要が少ない。前年同月比で減収減益である。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・主食である米の価格高騰だけではなく、品薄も影響している。
	×	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・当県は自動車関連企業が多いため、米国の関税措置の影響で、通常長期休暇となるゴールデンウィークの勤務シフトを変更して、早く商品を仕上げる企業が出てきている。長期休暇がなくなり、旅行の予約状況に影響が出てきている。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・給料の増加以上に物価が上昇しているため、客の支出に余裕がない。
	×	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の収入が増加せず、買い控えているため、非常に動きが悪い。
企業 動向 関連 (中国)		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは飛び石連休であるが、前年より受注量が増加している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今のところ順調で、5月は忙しくなる。
		輸送業	受注価格や販売価格の動き	・受注が増えている。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、コンサル案件や処理案件共に増加し始めた。
		農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ずっと変わらない感じで来ている。
		繊維工業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・米国の関税問題で、輸入品の価格が変動する可能性が高く、先行きが不透明となっている。
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・取引先からの受注や仕入状況に大きな変化はみられない。先行きも変化がみられない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向け大口注文、輸出の引き合いも少なく、現在の生産水準が継続する見込みである。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・プロジェクトの決定に時間を要している。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・多少の時期のずれは生じているものの、順調に予定案件が受注できており、当面は稼働率が高い状態で推移する。物価上昇については、価格転嫁が可能な情勢になりつつある。
		輸送業（業務推進担当）	取引先の様子	・特に大きなプラス・マイナスの要素もなく、取引先の動向に目立った様子はない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・域内の大手プラント企業の生産量低迷により、受注量は低位横ばいとなっている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・賃貸住宅の需要時期であった2～3か月前と比べると落ち込んでいるが、単月で見ると例年と余り変わらない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量や受注量から判断すると、客の節約意識が一段と加速しているようにみられる。客は商品を手取るが、元に戻し、購入しない姿がよくみられる。
		金属製品製造業（総務担当）	競争相手の様子	・客先が中国向けの大型案件を受注したため、定時間工数分以上の受注量があり、その状況は3か月前と変わっていない。月内で増産することとなり、原材料を追加購入する際、以前とは違って調達に困らない状況であり、同業他社は受注が少ないことが裏付けられる。
		一般機械器具製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・当社は北米市場へ多くの製品を輸出しているが、米国の関税の問題による出荷減少、生産計画減少が見え始めた。また、円高による影響も出始めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・引き続き原材料の値上げがあるものの、なかなか販売価格への転嫁が難しい状況である。また、海外受注分についても、受注時に比べ円高なので利益圧迫の傾向である。
		建設業	受注価格や販売価格の動き	・多種多様なものの物価上昇が続いている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・米国の関税政策により、製造業の客の輸出意欲が急速に冷え込んでいる。新規の業務も見通せないため中止となった。
		輸送業（企画担当）	取引先の様子	・設備計画のための予算見積りを取っていたが、かなりコストが上がっており、業者側が原材料価格等の上昇を気にしている。そのため設備投資計画の件数も制限されている。
		通信業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・データセンターに関する引き合い量が極端に減少している。経済動向も不安定であり、新たな投資に向けた動きが鈍くなっている。不確定要素があるため、ICT関連の取引減少にも通じている。
		金融業（経済産業調査担当）	それ以外	・県内企業の輸出や生産の動きに足踏み感が強まっている。
	x	-	-	-
雇用 関連 (中国)		人材派遣会社（求職者対応）	求職者数の動き	・応募数は増加しているが、年齢層が高く、スキル面の不足で案内できる人材が少ない状況である。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・毎年この時期は就職や転職をする人が多く、人の動きが活発である。ただし、新型コロナウイルス感染症発生前ほどは回復しておらず、ここ数年のなかでは微増という状況である。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	それ以外	・季節要因もあるが、企業の求人広告掲載が増加傾向である。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	求職者数の動き	・人材紹介事業において、3か月前と比較して求職者からの問合せ数が114%、利用登録数も119%となっている。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	周辺企業の様子	・求人票において、前年度よりも新卒初任給を上げる企業が若干増えている。
		人材派遣会社（事業部長）	それ以外	・受注は好調だが、人手不足からマッチングに苦戦し、派遣の就業人数は横ばいとなっている。一方で派遣の請求単価は継続的に上昇しており、売上は堅調に推移している。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	求職者数の動き	・2026年の新卒の内々定保有率は3月末時点で54.6%と高く、大手メディア企業の調べでは、特に理系学生は7割近くの内定率となっている。インターンシップ先が実質の企業選択の要因となっており、多くの学生はインターンシップに参加した先から内々定を得ており、そのなかから入社先を決定する傾向にある。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・有効求人数は前年同月比で減少が続いているものの、有効求人倍率はほぼ横ばいとなっている。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・欠員を理由とする補充よりも、業績向上、組織力強化を理由とする採用が目立つ。
		求人情報誌製作会社（大卒就職支援担当）	周辺企業の様子	・米国の関税への対応のため、投資を抑える動きが見られる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・人件費や原材料価格の高騰、米国の関税等、想定外の状況に地域の製造業を中心に慎重姿勢がうかがえる。
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		商店街（常務理事）	来客数の動き	・県立アリーナのオープンや芸術祭の開幕があり、インバウンドや国内観光客の増加が目立っている。しかし、地元の客の購買意欲は終息の見えない物価高騰のため、極端に萎縮しており、多くの物販店は商店街にぎわいとは対照的に苦戦が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年実績を上回っている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が増加し始めている。
		コンビニ（総務）	販売量の動き	・3か月前より売上の前年比が改善している。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車が再販売となったため、良くなってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・春が来て、四国遍路の仕事は前年より少ないものの、多少出ている。芸術祭で、インバウンドがかなり多く来ている。遠距離の客は少ないが、ホテルから港へ向かう客は増加している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが始まったばかりであるが、イベントも多く、客が活発に動いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・週末ごとに商店街での様々なイベントに、市内や県外からの客や観光客が来ており、来客数が増加している。マイナス要因もあるものの、にぎわいも徐々に出てきている。
		商店街（代表者）	それ以外	・諸物価の上昇が止まらない状況において、消費税の問題が議論され始めたことに注目している。社会保障制度の維持や財源を理由に、消費税の見直しに反対する意見もあるが、国民の生活、特に地方都市の衰退や更に進む少子高齢化の対策のため、消費税について抜本的な見直しを行う時期が来ている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇のため、以前と同程度の数量を購入する際には、やや予算を増額しなければならない感覚が、客に定着してきた。その中で、実際に予算を増額して同程度の数量を購入するか、数量を減少させて予算を不変とするかで迷っている様子である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が、前年並みの水準で継続しているため、景気は変わっていない。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・長期間継続している販売価格の値上げの影響で、売上は好調に推移している。来客数の増加は鈍化しているものの、販売価格の上昇がその状況を補填している。
		スーパー（人事）	販売量の動き	・単価の上昇により全体の売上は増加しているが、社会全体の景気の動向は不透明である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上は現状を維持している。商品価格が上昇しているなか、消費が抑制されることを懸念していたが、ほぼ前年並みで推移している。
		家電量販店（副店長）	単価の動き	・来客数は増加していないが、商品単価の上昇で売上を維持できている。特にエアコン、冷蔵庫、パソコンが前年比110%となった。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注状況に大きな変化はない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・4月1日から、酒やビールの値上げがあったことから、4月はやや落ち着いた状況である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・来客数は、前月までと同水準で推移している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・インバウンドが好調を維持しており、為替相場の変動についても今のところ影響を受けていない。
		競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・販売量は減少している。しかしながら、遊興のための資金が、例年より天候が良かったため、他の目的に向けられたことによる一過性の現象であり景気は変わらない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新規の客は少ない。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築用資材の価格は高止まりしている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・インバウンドの需要は増加しているが、国内需要は停滞若しくはやや減退している。為替の変動に加え、燃料価格の高騰が継続しているのが影響している。物価も更なる上昇傾向にあり、厳しい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・前月末は年度末決算の時期であることから、一定程度の受注があった。しかし、4月になると、運送費等の価格が高騰するなか、受注が落ち着き、懸念している状況である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・物価高騰が激しい情勢において、生活必需品ではない酒類のようなし好みに金をかけられる客は少ない。ビールの値上げ直後のため、今月は全く売れなかった。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・前年度と同様に、今年度も大学の教科書販売が大きく減少し、前年割れとなった。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・インバウンドは前年を超えて推移しているが、地元の客はあまり来店していない。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年4月や9月頃と同様に、値上げの影響等によって、客の消費マインドが低下している。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・好調であった来客数の伸びが鈍化している。
		コンビニ（商品担当）	単価の動き	・米、野菜、卵、肉、のり等については、原材料の値上げに終息の見込みがない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・4月は、本来は売上が好調な月で、天候にも一定程度恵まれたものの、売上が微減の状態であったことから、ゴールデンウィークに向けて大きなイベントを実施した。このイベントは毎年実施しており、月の後半は売上が回復したが、全体としては厳しい月であった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・商品価格の上昇と新生活準備需要の落ち着きにより、販売量が減少している。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・物価の上昇や米国の関税政策など不安要素が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・実車率が悪化している。個人タクシーは20年前から廃業する会社が増加し、稼働率は30～40%である。また、営業車の稼働率は、平日は35%程度、金曜日や土曜日は45%程度である。客数も半減している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月と同様、ガソリン代及びその他の価格も上昇しており、洋服まで金が回らないため、来客数も少なく、購買意欲はみられない。地元客をターゲットとしている店舗はかなり苦労している。
	×	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上が10%以上減少するとともに、来客数も減少しており、非常に厳しい状態が継続している。
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	それ以外	・販売量が伸び悩む状況であったが、利益の確保、給与の増加を販売価格に反映させることができた。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は春の入学、進学、行楽シーズンであり、最も売上が期待できる時期である。加えて、最近ではインバウンド需要もあり、前々年、前年の4月も順調に推移しており、今年も前年の数字をやや上回るペースで注文が入っている。
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干回復傾向にあり、第1四半期はこの傾向が続くとみている。しかし、受注量回復が見込めないならば、価格改定を行い利益改善に努める必要がある。
		化学工業（所長）	取引先の様子	・現在の受注は需要の先食いであるとの情報が多く、実態としては悪化している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の件数が少ない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きな変化はない。
		通信会社（総務担当）	それ以外	・会社主導のボランティア活動や地域のイベントといった社外イベントへの参加者数が増加したことに伴い、関係者の人の流れもやや活発になった。しかし、前年度より人の動きは活発化したものの、直近では余り変動がない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・住宅の販売戸数が、前年比で10%減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在、米国の関税政策により、景気が大変悪化している。特に、自動車関連の充電バッテリーや機械組立ての企業は、大変な不況である。再生可能エネルギーの事業についても、受注が減少したうえに、値引き交渉が頻繁に行われており、厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経理）	それ以外	・米国の関税政策により、世界的な景気減速、物価上昇及び為替動向の不安定さが生じている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産購入希望者への銀行の融資が非常に厳しくなっている。そのため、購入できない客が増加しており、景気は悪化している。
		税理士事務所	取引先の様子	・融資の返済のために、資金繰りが悪化している企業が増加している。
	x	-	-	-
雇用 関連 (四国)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・人手不足の状況が依然として続いている。
		職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人倍率について、管轄地域では、3か月前と比較するとやや低いものの、県内全域ではそれほど大きな変化はない。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・新卒採用が2月から4月にかけて本格的に実施されたが、地元の中小企業にとっては、厳しい結果となっている。求人での条件面では、初任給を含む賃上げや福利厚生の実施が難しい地元企業にとっては、大手企業との格差を埋めることができず、大手と中小、都市圏と地方との間で格差が拡大している。	
	x	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・物価上昇に伴い、個人消費は減少し、地方にとって景気が良くなる要素がない。また、最低賃金が上昇することに伴い、中小企業の経営が厳しくなり、広報に予算をかけられない。

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		-	-	-
		商店街（代表者）	販売量の動き	・物価の上昇も落ち着き、円安基調も底がみえてきたため景気は回復する。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・年度が替わることで、開店や改装などの祝いがあり、花の消費があった。
		百貨店（リーダー）	お客様の様子	・天候が暖かくなり、外出のスタイルへの関心が高まっている。
		スーパー（経理担当）	来客数の動き	・売上が好調に推移している。しかし、単価が上昇しているものの、来客数は前年並みである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・高層ビルの建設ラッシュで、工事関係者を含む勤務中の店の利用が増加している。インパウンドの安定した来店と併せて景気は上向きである。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーの新車生産が順調に伸びており、登録が進み受注残が確実に減少している。少しでも長納期で客に迷惑を掛けまいと考えている。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・受注停止の車種が多いなか、改良車種の販売が始まり、来客数が増加し注文も多かった。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年比でやや増加傾向にある。3月の移動シーズンを終え4月にはゆとりができたため、客の来店が盛んになっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年比とは明らかに販売量に違いがあり、国内外の宿泊客共に客室数に大きく差がある。数か月前と比べると単価は下がっているが、その分販売量が伸びている。
		旅行代理店（職員）	販売量の動き	・4月は国内外への出張、手配旅行が1月よりも多いため販売量が増加している。
		旅行代理店（統括者）	お客様の様子	・法人客は好業績によるインセンティブ旅行やイベント需要が高まっており、個人客は富裕層と準富裕層の旅行需要が増加している。また、訪日客は過去最高を継続しており、旅行先は当県に一極集中している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・年度が明けても時期に関係なく引き合いが多い状況である。前年度から用意されていた事業もあり、施策の相談が来ている。投下される予算も潤沢である。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光客等が利用する土産店や飲食店の来客数が伸びてきている。	
	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・繁忙期になり、来客数が増えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・当地区の商店街近辺に低価格の商品を扱うスーパーマーケットが数店舗オープンし、既存のスーパーマーケットとの価格競争から、商店街への来客が減少している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・前月よりも通行量が若干多いが、経済状況は余り良くないようで、生活必需品のみを購入する人が目立つ。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・季節が変化し、冬物から春物に商品が移り、客の購買は増加している。しかし、必要な物のみしか購入しない状況を考えると、3か月前と比べ景気は良くなっているとはいえない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・天候が安定し、過ごしやすい季節となってきたため、商店街の人通りも若干増加している。年金給付日に合わせてダイレクトメッセージで集客を図ったが反応は鈍い。客は物価高のため消費に慎重である。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・飲食店向けの販売は、引き続き高単価の商品が売れている。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・気温が高くなってきており、特に高齢者の春物及び初夏物の衣料品の動きが鈍い。一方、日用品や物産展等の食品は来客数や客単価共に堅調であるが、宝飾品の動きには変化がない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・入学用制服の受取の遅れがあり、全店催事や紳士・婦人衣料、紳士・婦人雑貨、皮革市開催での来店は厳しかったが、中旬から開催された食品催事では盛況で長蛇の列ができた。中でも恒例の物産催事は連日お買い得商品や試食を楽しむ家族での来店があり、買物を楽しむ姿がみられ、インバウンドの来場も多い。また、価格は上昇したが自家需要やし好性の高い商品への関心は相変わらず高い。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・気温が平年より低いいため、春物を中心とした衣料品の動きは相変わらず鈍く、前年の売上を3か月前から割り込んでいる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・4月からの更なる物価高騰で消費者の生活防衛意識が高くなっており、来店頻度の減少が来客数推移に表れている。一方でディスカウント商品は伸長している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・景気は良くなり、横ばいで推移している。単価の上昇が著しく継続しているが、多くの消費者の所得は増えておらず、必要な物の購入に偏ってきている。万引きや窃盗、認証不正問題会計の件数が過去にない水準で推移している。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・相変わらず割安なプライベートブランド商品がよく売れている。また、ナショナルブランド商品の8割以上が4月に値上がりしており、明らかな値上げであったり、単価は変わらず容量が若干減るステルス値上げであったり、いずれもほとんどの商品が高くなっている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・当月は、来客数と買上点数が久しぶりに前年を僅かに上回る水準で推移している。さらに、食品各種値上げの影響で客単価が上昇した分、売上は前年を上回っている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・4月に食料品の値上げが実施され、米の高値も継続中であることから、客単価は更に高くなっている。そのため、買い控えが顕著となっており、販売量は減少傾向にある。
		スーパー（従業員）	お客様の様子	・客の平均購入数が減少している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・天候に恵まれたため来客数、客単価共に前年を僅かに上回って推移している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新年度に入り顧客の異動はあったが、特に大きな変化はない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・客単価が上がる夕方から夜にかけての客の動きが鈍い。これから気温が高くなるにつれて今の状況が若干回復される見込みだが、現状の客の動きがら期待することはできない。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の動きに変化はない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・車両供給が落ち着いた状況にあるため、販売量の動きは良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・産業祭りは前年並みの売上だったが、都市部でのキャンペーンは良くない結果である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕 (支配人)	お客様の様子	・1月の終わりは、シネコンの好調や冷え込んだ気象要因もあり当館は全体として順調な売上の推移であった。その後、2月、3月は厳しい商況だったものの、4月の下旬以降は徐々に回復している。シネコンは継続して低調推移であるがディスカウントストアやスーパーマーケットの中核テナントが順調で、引っ張られるように専門店も回復している。1月下旬ほどではないものの、ゴールデンウィークに向け期待を持てる状態である。
		観光型ホテル (専務)	来客数の動き	・毎年ではあるが新年度が始まると客足が悪くなる。今年のゴールデンウィークは、日の並びが悪く予約の出足が遅い。
		観光型ホテル (管理)	それ以外	・売上は増加傾向にあるが、食材の原価や水道光熱費の高騰等により収益の確保が難しくなっている。
		都市型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・来客数が減少し、予想売上が残り良くない状況である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今年はイベントが多いため、人の動きは良いがタクシーの利用は少ない状況である。
		タクシー(統括者)	来客数の動き	・来客数は前年と比較すると変化がなく、それにより単価の増減も大きく発生していない。
		通信会社(役員)	お客様の様子	・上位プランから安価なプランへの変更が続いている。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・冬場に多かったインバウンドは減少しているものの、県内客の予約状況は堅調に推移している。今後は、物価高騰や賃金上昇に見合った価格改定や団塊世代の減少を受けて若手ゴルファーへのスライドが順調に進むかが課題である。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・2~3か月前と比較すると横ばいが続いている。美容業界は春になると服装やヘアスタイルも変わり、客の動きが活発化すると業界は潤うが、今年はそのような傾向はみられない。おしゃれをする人は毎年同じようなファッショントレンドであるため、今年も前年と近い数字が出ている。景気回復が実感できるほど現状は良くなっていない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前であるが来客数はそこまで多くない状況である。
		美容室(店長)	来客数の動き	・来客数は変わらないが、3か月前と比較すると節約志向は落ち着いてきている。
		その他サービスの動向を把握できる者(所長)	お客様の様子	・顧客の受注等は、3か月前と現在の比較ではほぼ変わらない状況である。また、当社の顧客からの受注にも変化はない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・例年、年度初めは繁忙期のため来客数は多いが、年々繁忙日数は減少している。以前はゴールデンウィークまで忙しい状況であったが、今年はそこまで忙しくないため心配をしている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・物価高の影響で国内客やインバウンド数が減少しており、買い控えが発生している。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・来客数は減少気味である。客の購買は慎重になっており、高単価の商品は敬遠されるため客単価は下がっている。
		一般小売店〔青果〕(店長)	お客様の様子	・4月は、前月と同様に急激に商品の単価が下がり、その分売上が増加しにくくなっている。加えて、米の価格の高騰が生活費に響いており、客の野菜や果物関係の買い控えが発生している。
		一般小売店〔茶〕(販売・事務)	お客様の様子	・全体的な景気は回復するどころか悪化している。新茶も出始めているがまだ高額であるため買い控えを感じており、売上は上がらない状況である。
		百貨店(企画担当)	来客数の動き	・春休みなどで前半には賑わいがあったが、中旬以降は苦戦傾向になっている。特に近隣地区の大型商業施設オープンの影響により、下旬の売上はかなり減少している。
		百貨店(企画担当)	販売量の動き	・インバウンドが大幅に減少しており、購買量や売上が減少している。また、国内客の購買点数も減少しており、景況感としてはマイナスに移行している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価高の影響で婦人衣料品を含め各部門で苦戦を強いられている。食品催事等では以前より客の動員が悪いため、来客数が伸びていない。家具やインテリアのみ好調に推移している。
		百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・物価高の影響で商品単価がかなり上がっており、客の買い控えが顕著になっている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・例年ゴールデンウィークには、衣料品の需要を中心に動きが見られるが、今年は動きが鈍い。また、米価格の高騰やガソリン代の不安定な動きに客は非常に不安を抱いている。加えて、米國政権の言動により株価などが激しく動いており、客は購買意欲がかなり減退している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・物価上昇が今月も続き、客の買い控えが目立っている。前月までの比較で客単価が30円ほど低下し、売上全体も今月は前年を下回っており、厳しい状況である。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・商品の値段が上がりが買い控えが発生している。加えて、競合店が増加しており売上が下がっている状況である。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・最近では春が短いため、春物の買い控えが増えている。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・4月は様々な物の価格が更に上昇している。値段が変わらなくても中身が少なくなる等、食品の家計に係る負担は想像以上である。今、必要な物以外に購入することはなかなか難しい傾向にある。健康や僅かな楽しみに金を消費に使う客が多く、我々のような高級衣料品業界は為替の影響もあり若干厳しい状況である。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が回復せず、更に下降傾向となっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・必要最低限の消費を心掛ける人が増加している。特に年金受給者の方は深刻な状況である。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・4月の値上げが単価の上昇につながらず、単価が下落している。同時に購入点数も減少しており、消費者の生活防衛意識の高まりが現れている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・車の購入を検討する人が減少している。
		住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・来客数が減少しており、客は低単価のタオルだけを見るなど儉約志向になっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	単価の動き	・韓国人観光客による売上が減少傾向である。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前月と比較すると今月の来客数は良かったが、まだ本格的な回復には至っていない。
		観光型ホテル（営業）	来客数の動き	・仮予約は多いものの、決定の割合が低く、生産性が低下している。
		旅行代理店（統括者）	お客様の様子	・株価と為替が不安定であるため、客の買い控えが目立っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・物価高や米國の関税問題等、不確定要素が強く、インバウンドや催物の多さで活気は維持しているものの、タクシーは節約対象になりやすいため売上の減少が続いている。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・物価上昇に対して、昇給されていない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線販売件数が低迷しており、契約数が純減している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	販売量の動き	・物価高騰に賃上げが追い付いておらず、特に若者の来客数が少ない状況である。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・2024年4月の報酬改定に伴う売上減少とともに、消耗品の価格高騰や補助金減少による燃料費やガソリン代の負担増加もあり、厳しい経営環境が継続している。また、他業界の大幅な賃上げに対して、価格転嫁ができない介護業界では限定的な賃上げしかできず、人材確保が更に深刻となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（所長）	単価の動き	・材料や製品の単価上昇が続いているが、人件費は上がらず、地方の業者は特に厳しい状況におかれている。また、生活必需品の価格も上昇しており、収入は増加しないが、支出は増え苦しい状況である。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・来客数の動きが悪く経済の後退がみられる。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・3月は客に動きが見受けられたが、今月は一転して動きが大幅に減少している。
		住宅販売会社（従業員）	それ以外	・当県は多くの外国人観光客が来ており、宿泊業や飲食業、土産店等で買物をしているが、景気を底上げできるような業種ではないため、今後のインバウンドの動きが不透明で景気が良いとはいえない。
	x	*	*	*
企業 動向 関連 (九州)		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年4月は、年度末の反動から若干売上が落ちるが、今年もその傾向になっている。東北の原料不足からくる供給不足もあるが、3月の勢いがいい状況である。直接の競合品ではないものの、輸入プロイラーの入荷が悪くなっており、鶏肉の消費の勢いがいい。値上げが影響していると考えている。しかし、自社加工品の引き合いは、量販店や居酒屋を中心に引き合いが強くなっている。また、加工メーカー主流の原料肉の引き合いは、このところ一服している。メニュー変更の時期に重なっていることも影響している。
		食料品製造業（経営者）	それ以外	・地域のプレミアム付商品券が今月発行され、少なからず消費が上向きである。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置向け部品の需要が短期的に増加したため、販売量の動きは良い。
		輸送業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・車両の空車回送率が若干減少しており、荷物の動きが良くなっている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・状況は余り変わってはいないが、原材料の単価が8月に値上がりし、下請でも人件費や陶土の値上がりにより2割以上の要求をされ、最も危惧している。
		金属製品製造業（事業統括）	それ以外	・米国関税の影響及び円高進行による不安定感がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業界によって景気の良しあしがある。半導体関連では相変わらず景気を持ち直しがみられないが、エネルギーや自動車関連等については見積りが多くなっている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・米国関税の状況が落ち着くまで、経過を確認している取引先が多い。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2024年問題や米国関税の影響で倉庫の引き合いなどはあるが、契約などに結び付くのは数件である。メーカーも今後どのように対応すればよいか悩んでおり、具体的な案件は少ない。しかし、少しずつではあるが輸入の取扱は増加している。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・物価高の影響で物量が伸びない。今のところ直接関税による影響は受けていないが、徐々に響いてくると予想される。2024年問題や育児介護休業法改正による中小企業へのしわ寄せが重くのしかかっている状況である。
		通信業（統括者）	受注量や販売量の動き	・ビジネスリスクへの対応として必須であるセキュリティ対策への需要は堅調な伸びを見せつつも、顧客の通信ネットワークや通信機器等への投資はおおむね横ばいで大きな変化はみられない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・公共工事は増加しているが、住宅販売は弱含みで推移している。一方、雇用、所得環境が改善傾向にあり、百貨店やスーパーマーケット及びコンビニエンスストアの売上が堅調に推移している。また、旅行関連等の観光業の売上も増加している。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・原材料や人件費などのコスト増加をおおむね価格転嫁ができており、大きな変化はない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・地元企業からは物価高の業績への影響を懸念する声が強まっている。価格転嫁は建設業や卸小売業で進展している一方、製造業やサービス業では対応に苦慮する様子もつかえる。企業の人手不足は幅広い業種に及んでいるが、なかでも建設業で顕著である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・天候が暑くなったり、寒くなったりしている影響もあり、消費は停滞している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・米国の関税政策により事業者は不安になっている。足元も物価高の状況は変わらず、景気の状況は変わらない。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自社の仕事内容がここ数か月間ほとんど変化がないため景気の動向は変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況をヒアリングすると大きな変化はない様子である。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・同業者との会合の近況報告では、特に目立った動きは見えない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・過去2～3か月は順調に受注量や生産量は伸びていたが、米国の関税問題により輸出製品に影響が出るため、セットメーカー等の顧客が生産量を抑制するという状況が続いている。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・まだ影響は出ていないが輸出に対する不安等から、生産が落ちてきている。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は前月比でプラスになっているが、前年比ではマイナスの結果となっている。顧客の新聞折込広告も余り効果が見込めなかった。また、外的な要因では米国の政策が振れているため混乱を来しており、紛争に関しても米国大統領に振り回されており、前月までやや売上は悪くなっている。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・酒類では、安い商品しか売れていないため売上が減少している。
	x	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・仕事量が減少しており、どこの工場もパブル崩壊後のような状態になりつつある。メーカーは安い土地に生産拠点を移し、海外にシフトしている。その結果、国内工場は、賃金上昇による工賃上昇で仕事量が減らされ、潰れることを危惧している。
	x	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	取引先の様子	・市町村からの調査や計画策定の委託業務を受注しているが、県内の市町村において4月の予算での調査や計画策定に関する予算の計上は少なく、総合計画、総合戦略、立地適正化計画の策定で予算計上を行っている程度である。このため、4月当初からの発注件数が少なく、受注できる機会が減少し、景気は悪くなっている。
雇用 関連		-	-	-
(九州)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数や求職者数に特段の変化が認められない。
		新聞社[求人広告]（社員）	それ以外	・物価高の印象が強く、好材料を見いだせない状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年と比べ減少しているが、製造業の求人数は増加している。求人数が減った卸売業や小売業、飲食サービス業も3月のイベント等で売上が好調となり、大型スーパーマーケットの出店など明るい要因もある。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新卒の就職活動が早期化しているため、前年よりも内定状況は良い状態である。給料は余り上がらずインフレを実感しているため実際の景気は良いといえないが、人材不足が継続しているため、業界としては良い状況が継続している。
		学校[大学]（就職支援業務）	求人数の動き	・2026年3月卒業予定の大学生や大学院生対象の求人倍率は1.66倍と2025年卒の1.75倍から0.09ポイント低下したが、企業からは引き続き堅調な採用意欲がみられる。就職活動の早期化が2024年度よりも更に進展し、2025年4月1日時点で内定率は61.6%と前年より3.5ポイント上昇しており、過去最高を記録している。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・求人数は3割ほど減り、契約成立も約4割減少している。また、求職者からの問合せも少ない状況が目立つ月である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・大型連休に入ることもあり、今月の求人数や登録者数の動きが全体的に悪く目標値を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)		その他専門店 [陶器]（製造）	販売量の動き	・イベントへの出店により、外国人観光客の購入が増加している。
		百貨店（経営担当）	来客数の動き	・ホワイトデーや合格などの祝い事のギフト需要で、来客数が増加している。
		コンビニ（経営企画担当）	来客数の動き	・例年と比べ気温が低く、天候は良くなかったが、来客数の落ち込みはみられず、観光客の増加とともに客足は伸びている。
		その他専門店 [書籍]（部長）	それ以外	・繁華街は人であふれ、近隣の土産品店や飲食店などに多くの客が見受けられる。インバウンド需要が大きい文具やホビーショップの売上が好調である。
		一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・歓送迎会が続き、観光客も多くみられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・街中は飲食店が多くなり、外国人観光客もいるが、店舗としては、一長一短であるため、判断が難しい状況である。
		一般小売店 [酒]（店長）	お客様の様子	・物価高が止まらず、主食である米が異常なほど高くなっている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今月は来客数が前年並みとなっている。1人当たりの購入点数は減っているものの、1品単価の上昇により売上は伸長した。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・購入目的を持った客だけが購入しており、衝動買いをする客が減少している。
		旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・前年度と比べても販売量は変わらない。
		住宅販売会社（役員）	販売量の動き	・新築マンションの販売価格が高い傾向にあることから、中古マンションや中古住宅の取引が活発になっている。
		住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・前月に続き、住宅相談や問合せが好調に推移している。一方、建築単価の高騰や米国の関税政策を含めた政治的不安感が下押ししているとみている。
		家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・前年度に気温や天候の影響でエアコン、除湿器などの購入が増加したため、反動により季節家電が不振となっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・米国の関税政策の影響により、新規客が減少し、車の購入もかなり慎重な姿勢が目立っている。
		観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・1月の販売室数が前年比40%増加なのに対し、4月は前年比26%増加と、プラス幅が小さくなっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来客数が前年比で2割減少しており、販売量の減少につながっている。
	x	その他飲食店 [バー]（経営者）	単価の動き	・来客数が少なく、平均客単価も低下している。1～2杯で帰る客が多く、3杯以上注文する客が減少している。コロナ禍以降の生活習慣の変化もみられるが、物価高の影響が特に大きいとみている。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-	-
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・毎月の観光客数が過去最高を更新しており、ホテルやコンビニ向けの業務用関連食品の動きが好調に推移している。
		窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼及び受注は3か月前と比較すると、公共工事が若干の増加傾向である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・見積依頼が増加しており、特にマンション工事が多く、他には、ホテルや倉庫の受注もみられる。
		輸送業（総務経理担当）	それ以外	・物価は上昇しているが、賃金のベースアップにより悪化していない。
	x	-	-	-
		会計事務所（所長）	それ以外	・全般的な物価高が、徐々に影響しているとみている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (沖縄)		-	-	-
		学校〔専門学校〕（就職担当）	周辺企業の様子	・2026年卒向けの採用は徐々に落ち着いてきたが、2027年卒向けの合同説明会などのイベント案内が多く届いている。一部の企業は合同説明会を2日間実施するなど、多くの企業が夏休み前のインターンシップを重要視している。
		人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求人数に対して求職者の動きが鈍く、ゴールデンウィークの影響により、求職者の問合せが減少している。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・物価高騰により生活費が高くなっており、賃金のベースアップが生活のゆとりにつながっていないとみている。
	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・4月の求人数は1月と比べて、やや減少している。全体として落ち着いた動きがみられるなか、飲食業界は堅調に推移している。ホテル業界はゴールデンウィークや夏シーズンに向けた人材確保の動きで求人数がやや増加している。前年同月比では微減となったが、堅調な業種もみられる。	
	x	-	-	-